

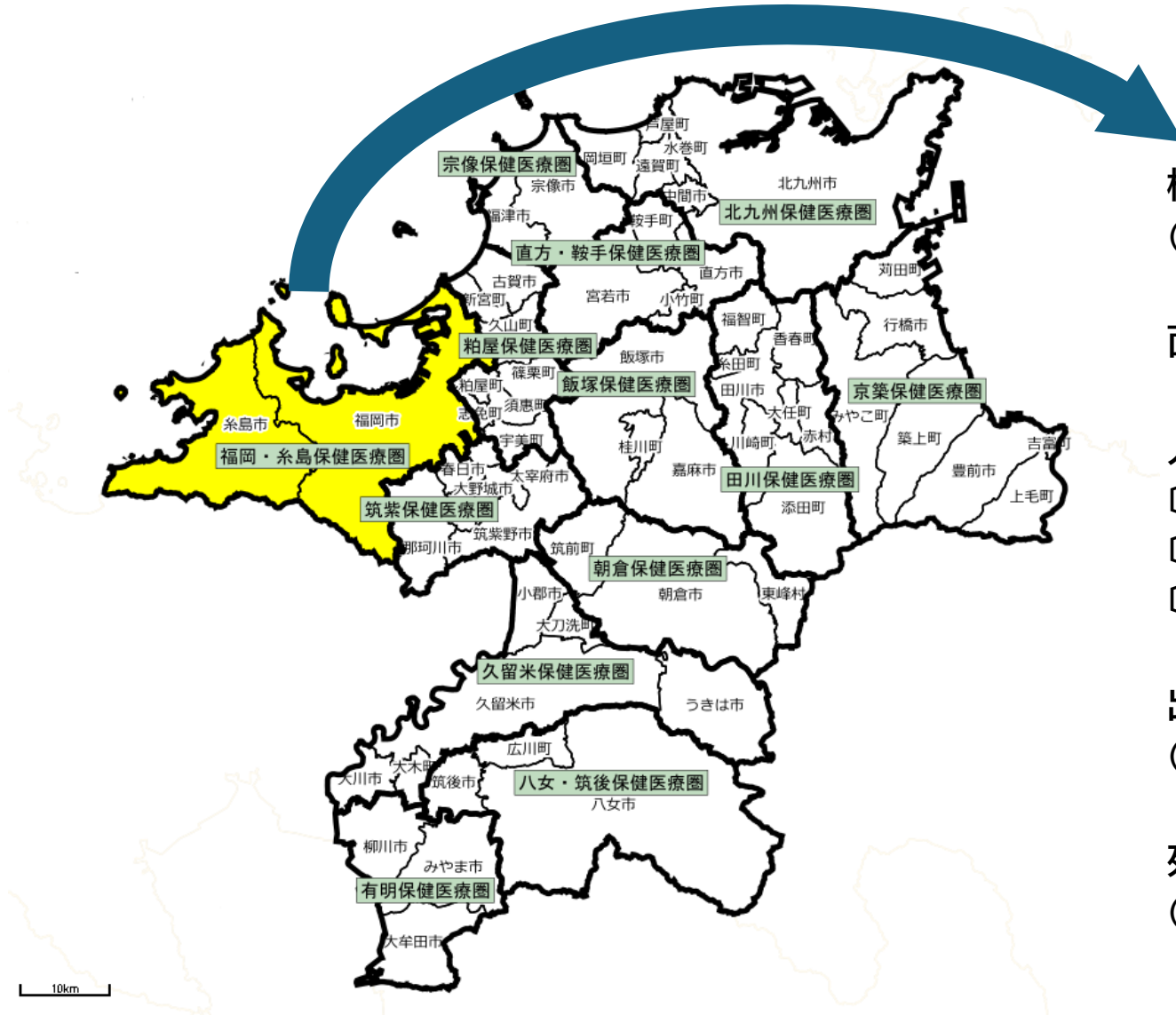
地区診断

—福岡・糸島区域—

目次

1	概要	3
2	人口の状況	4
3	出生率の状況	9
4	死亡率の状況	10
5	将来推計人口の推移	11
6	市区別将来推計人口の推移	15
7	SCRの状況	17
8	患者推計	22
9	医療従事者数〔医師〕	24
10	医療従事者数〔医師・診療科〕	26
11	医療従事者数〔常勤医師〕	28
12	医療介護資源の状況	29
13	医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕	31
14	在宅医療の状況	36
15	看護職員の状況	41
16	二次医療圏の人口及び流入流出患者割合・比較表	43
17	二次救急及び急患センターの位置（隣接区域含む）	44
18	人口メッシュ（500m）	45
19	救急搬送の状況	46
20	福岡県救急電話相談事業（#7119）市別利用件数	51
21	MDC別割合	52

1. 概要



構成市町村:2市
(福岡市、糸島市)

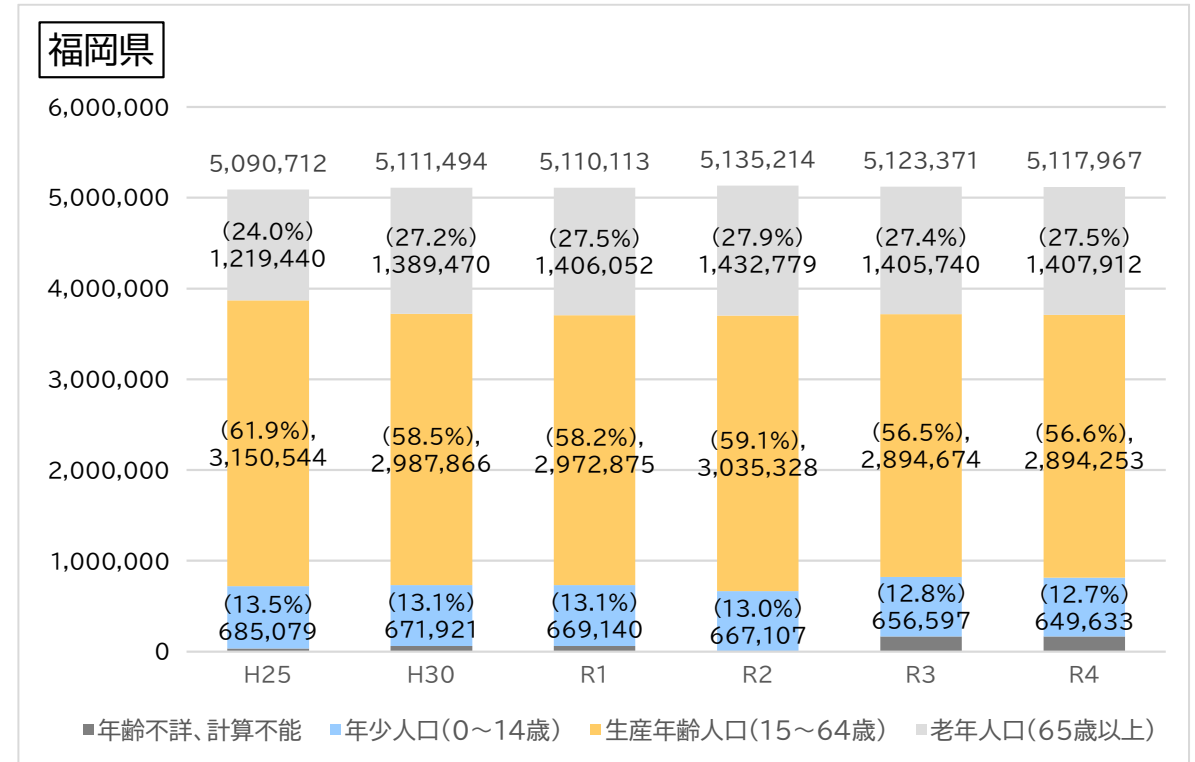
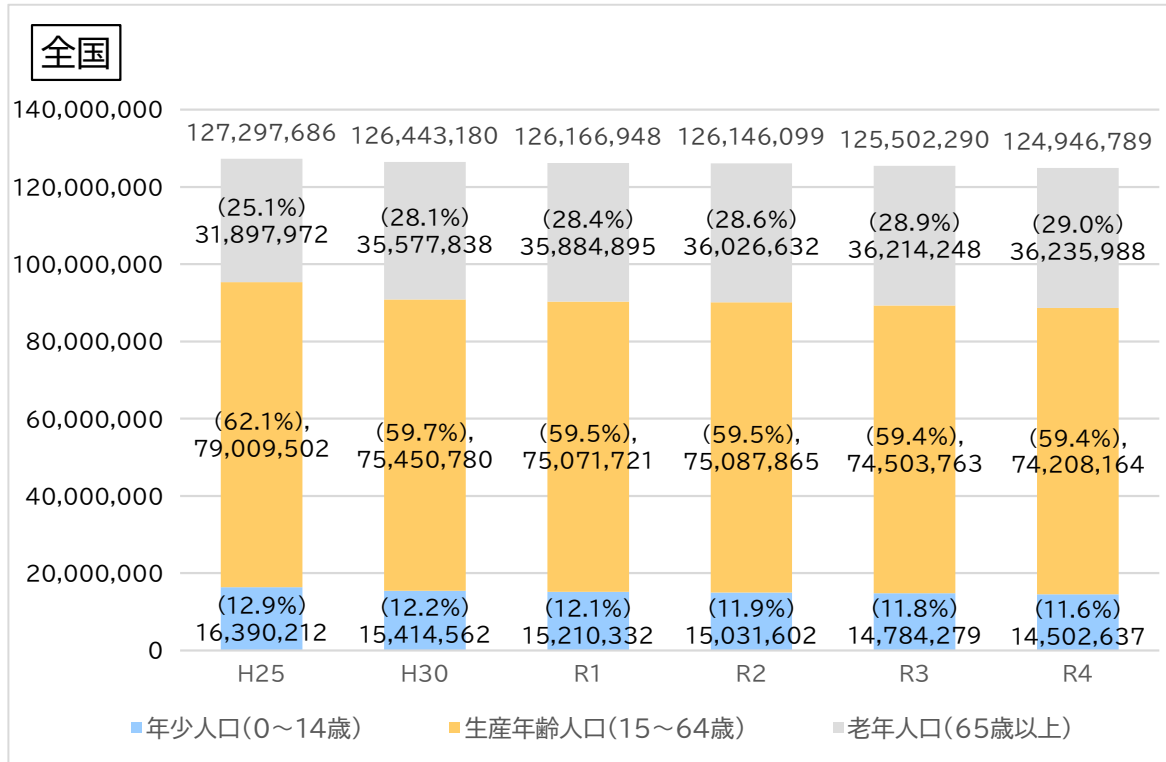
面積:559.16km²

人口:1,711,269人(令和2年国勢調査)
〔うち年少人口(0~14):218,642人(12.8%)〕
〔うち生産年齢人口(15~64):1,045,578人(61.1%)〕
〔うち老年人口(65~):368,508人(21.5%)〕

出生数:12,866人(令和4年福岡県保健統計年報)
(人口千対:7.6)※ 県平均7.1

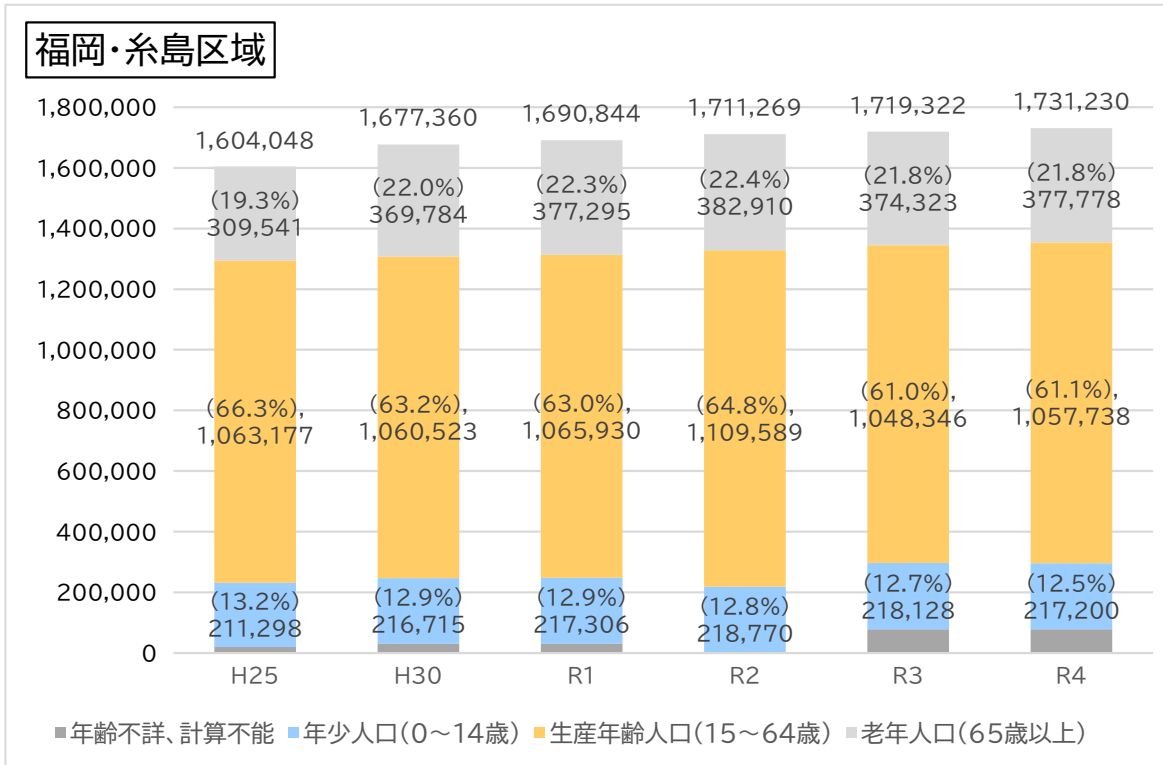
死亡数:15,694人(令和4年福岡県保健統計年報)
(人口千対:9.3)※ 県平均12.2

2. 人口の状況 (「福岡県の人口・年齢3区分別(各年10月1日現在)」)



- ・総人口について、全国は減少傾向であり、福岡県は令和2年をピークに減少していく見込み
- ・年齢3区分別人口の推移を見ると、全国、福岡県ともに、老年人口の割合は増加傾向で、生産年齢人口、年少人口は、減少傾向となっている
- ・老年人口の割合は、H25年からR4年までで、全国で3.9ポイント増加し、福岡県では、3.5ポイント増加している

2. 人口の状況（「福岡県の人口・年齢3区分別(各年10月1日現在)」）



・総人口については、増加傾向

・年齢3区分別人口の推移を見ると、老年人口、生産年齢人口、年少人口の割合は、概ね横ばいで推移している

・老年人口の割合は、H25年度からR4年度までで、2.5ポイント増加している

・各市区の状況を見ると(スライド6参照)、老年人口の割合は、福岡市区で20%前後から20%台前半で推移しているのに対し、糸島市では25%台後半から30%超に達している

福岡市は生産年齢人口の割合が6割を超えており、糸島市を5ポイントほど上回っている

2. 人口の状況（「福岡県の人口・年齢3区分別(各年10月1日現在)」）

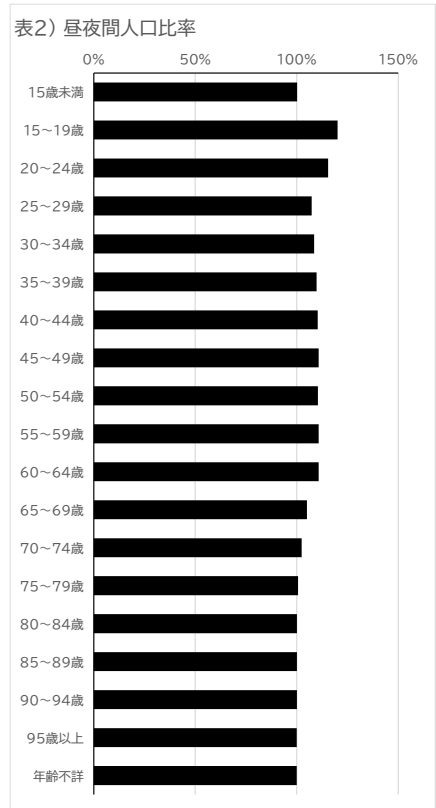
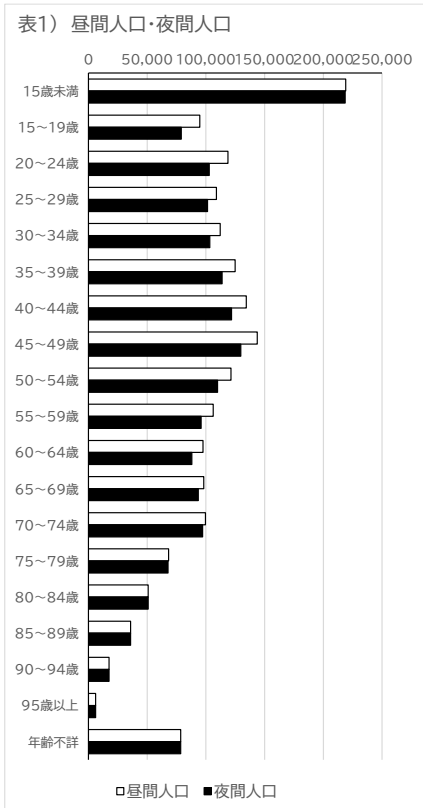
●福岡・糸島区域の各市区の状況

	H25				H30				R1				R2				R3				R4			
	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数
福岡市	197,650 (13.1%)	1,003,225 (66.6%)	285,580 (19.0%)	1,506,313	203,297 (12.9%)	1,004,726 (63.6%)	341,446 (21.6%)	1,579,450	203,722 (12.8%)	1,010,561 (63.5%)	348,417 (21.9%)	1,592,657	205,089 (12.7%)	1,054,071 (65.4%)	353,232 (21.9%)	1,612,392	204,235 (12.6%)	993,065 (61.3%)	344,109 (21.2%)	1,619,585	203,157 (12.5%)	1,002,794 (61.5%)	347,293 (21.3%)	1,631,409
東区	42,491 (14.1%)	197,685 (65.8%)	56,832 (18.9%)	300,410	44,393 (14.1%)	198,958 (63.1%)	68,462 (21.7%)	315,525	44,532 (14.0%)	200,666 (62.9%)	69,934 (21.9%)	318,842	44,644 (13.8%)	206,347 (64.0%)	71,512 (22.2%)	322,503	44,716 (13.7%)	200,016 (61.5%)	70,801 (21.8%)	325,409	44,846 (13.6%)	202,779 (61.6%)	71,575 (21.8%)	329,075
博多区	22,130 (10.0%)	152,880 (68.9%)	38,716 (17.5%)	221,857	22,263 (9.3%)	158,369 (66.0%)	45,806 (19.1%)	239,905	22,467 (9.2%)	160,854 (66.0%)	46,772 (19.2%)	243,559	24,192 (9.6%)	181,915 (72.2%)	45,927 (18.2%)	252,034	23,905 (9.5%)	163,522 (64.7%)	42,098 (16.7%)	252,685	23,617 (9.2%)	166,312 (65.1%)	42,311 (16.6%)	255,398
中央区	18,661 (10.0%)	131,904 (70.5%)	31,306 (16.7%)	187,142	19,923 (10.0%)	135,424 (68.2%)	36,932 (18.6%)	198,563	20,276 (10.1%)	137,082 (68.1%)	37,812 (18.8%)	201,440	20,446 (9.9%)	147,628 (71.8%)	37,427 (18.2%)	205,501	20,544 (9.9%)	133,368 (64.3%)	35,628 (17.2%)	207,462	20,581 (9.8%)	135,797 (64.6%)	36,026 (17.1%)	210,323
南区	34,477 (13.6%)	167,033 (66.0%)	50,319 (19.9%)	252,900	35,680 (13.6%)	164,082 (62.6%)	60,178 (23.0%)	262,113	35,878 (13.6%)	164,575 (62.4%)	61,157 (23.2%)	263,782	36,109 (13.6%)	167,911 (63.2%)	61,563 (23.2%)	265,583	36,251 (13.6%)	163,110 (61.2%)	60,941 (22.9%)	266,681	36,302 (13.5%)	163,937 (61.2%)	61,430 (22.9%)	268,047
西区	31,028 (15.5%)	128,191 (63.9%)	40,930 (20.4%)	200,475	31,409 (14.8%)	130,654 (61.6%)	48,792 (23.0%)	212,106	30,995 (14.6%)	130,494 (61.4%)	49,678 (23.4%)	212,417	30,337 (14.3%)	130,973 (61.6%)	51,269 (24.1%)	212,579	29,615 (14.0%)	123,178 (58.1%)	49,986 (23.6%)	211,918	29,112 (13.7%)	124,043 (58.4%)	50,279 (23.7%)	212,571
城南区	16,642 (12.9%)	86,131 (66.6%)	25,603 (19.8%)	129,360	16,821 (12.7%)	82,734 (62.6%)	30,897 (23.4%)	132,133	16,781 (12.7%)	82,421 (62.2%)	31,688 (23.9%)	132,568	16,709 (12.6%)	83,649 (63.0%)	32,506 (24.5%)	132,864	16,666 (12.5%)	78,111 (58.6%)	31,558 (23.7%)	133,266	16,475 (12.4%)	77,978 (58.6%)	31,787 (23.9%)	133,170
早良区	32,221 (15.0%)	139,401 (65.1%)	41,874 (19.6%)	214,169	32,808 (15.0%)	134,505 (61.4%)	50,379 (23.0%)	219,105	32,793 (14.9%)	134,469 (61.1%)	51,376 (23.3%)	220,049	32,652 (14.8%)	135,648 (61.3%)	53,028 (24.0%)	221,328	32,538 (14.6%)	131,760 (59.3%)	53,097 (23.9%)	222,164	32,224 (14.5%)	131,948 (59.2%)	53,885 (24.2%)	222,825
糸島市	13,648 (14.0%)	59,952 (61.3%)	23,961 (24.5%)	97,735	13,418 (13.7%)	55,797 (57.0%)	28,338 (28.9%)	97,910	13,584 (13.8%)	55,369 (56.4%)	28,878 (29.4%)	98,187	13,681 (13.8%)	55,518 (56.1%)	29,678 (30.0%)	98,877	13,893 (13.9%)	55,281 (55.4%)	30,214 (30.3%)	99,737	14,043 (14.1%)	54,944 (55.0%)	30,485 (30.5%)	99,821

※総数には年齢不詳、計算不能を含む

2. 人口の状況 (2020年(令和2年)「国勢調査」)

●昼夜間人口



年齢	昼間人口		夜間人口		昼夜間人口比率	
	男	女	男	女	男	女
総数	1,836,257	955,899	1,711,269	903,137	107.3%	105.8%
15歳未満	219,058	107,094	218,642	106,740	100.2%	100.3%
15～19歳	94,789	48,196	78,933	39,455	120.1%	122.2%
20～24歳	118,766	61,464	102,891	53,081	115.4%	115.8%
25～29歳	108,927	58,780	101,429	54,417	107.4%	108.0%
30～34歳	112,129	58,587	103,284	54,321	108.6%	107.9%
35～39歳	124,873	64,019	113,793	59,321	109.7%	107.9%
40～44歳	134,358	68,385	121,776	63,154	110.3%	108.3%
45～49歳	143,673	72,378	129,719	66,992	110.8%	108.0%
50～54歳	121,283	61,438	109,834	57,137	110.4%	107.5%
55～59歳	106,239	52,884	95,896	49,757	110.8%	106.3%
60～64歳	97,569	48,008	88,023	45,871	110.8%	104.7%
65～69歳	98,169	50,354	93,467	49,302	105.0%	102.1%
70～74歳	99,524	53,399	97,220	52,860	102.4%	101.0%
75～79歳	68,172	39,270	67,719	39,127	100.7%	100.4%
80～84歳	50,828	31,410	50,779	31,386	100.1%	100.1%
85～89歳	35,878	24,016	35,850	24,003	100.1%	100.1%
90～94歳	17,490	13,169	17,483	13,166	100.0%	100.0%
95歳以上	5,991	4,992	5,990	4,991	100.0%	100.0%
年齢不詳	78,541	38,056	78,541	38,056	100.0%	100.0%

年齢	昼間人口		夜間人口		昼夜差		昼夜間人口比率	
	男	女	男	女	男	女	男	女
総数	880,358	955,899	808,132	903,137	72,226	52,762	108.9%	105.8%
15歳未満	111,964	107,094	111,902	106,740	62	354	100.1%	100.3%
15～19歳	46,593	48,196	39,478	39,455	7,115	8,741	118.0%	122.2%
20～24歳	57,302	61,464	49,810	53,081	7,492	8,383	115.0%	115.8%
25～29歳	50,147	58,780	47,012	54,417	3,135	4,363	106.7%	108.0%
30～34歳	53,542	58,587	48,963	54,321	4,579	4,266	109.4%	107.9%
35～39歳	60,854	64,019	54,472	59,321	6,382	4,698	111.7%	107.9%
40～44歳	65,973	68,385	58,622	63,154	7,351	5,231	112.5%	108.3%
45～49歳	71,295	72,378	62,727	66,992	8,568	5,386	113.7%	108.0%
50～54歳	59,845	61,438	52,697	57,137	7,148	4,301	113.6%	107.5%
55～59歳	53,355	52,884	46,139	49,757	7,216	3,127	115.6%	106.3%
60～64歳	49,561	48,008	42,152	45,871	7,409	2,137	117.6%	104.7%
65～69歳	47,815	50,354	44,165	49,302	3,650	1,052	108.3%	102.1%
70～74歳	46,125	53,399	44,360	52,860	1,765	539	104.0%	101.0%
75～79歳	28,902	39,270	28,592	39,127	310	143	101.1%	100.4%
80～84歳	19,418	31,410	19,393	31,386	25	24	100.1%	100.1%
85～89歳	11,862	24,016	11,847	24,003	15	13	100.1%	100.1%
90～94歳	4,321	13,169	4,317	13,166	4	3	100.1%	100.0%
95歳以上	999	4,992	999	4,991	0	1	100.0%	100.0%
年齢不詳	40,485	38,056	40,485	38,056	0	0	100.0%	100.0%

- ・昼夜間人口の差が大きい年代は「15-19歳」「20-24歳」で、通学や通勤で域内に流入しているものと思料
- ・それ以外の年代についても、昼夜間人口比率はいずれも100%を超えている
- ・就業の年代(25-64)で見ると、男女とも昼間人口が多く、域外からの流入が大きいと思料

2. 人口の状況 (2020年(令和2年)「国勢調査」)

表4) 昼夜間人口比率

		計		就業者		通学者		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女
自地域内で 従業・通学 等	自地域内で、従業・通学	415,534	412,437	328,358	329,706	87,176	82,730	0	1
	従業も通学もしていない	173,021	307,341					173,021	307,341
	不詳	165,931	154,617	14,921	12,727	11,528	10,766	139,482	131,124
	計	754,486	874,395	343,279	342,433	98,704	93,496	312,503	438,466
流出	他地域に従業・通学	53,646	28,742	49,103	24,587	4,543	4,155	0	0
流入	他地域から従業・通学	125,872	81,504	110,110	65,509	15,762	15,994	0	1

主な流出先

【就業】

市区町村名	流出(人)	構成比	市区町村名	流出(人)	構成比
1 福岡県 大野城市	6,170	8.37%	1 福岡県 太宰府市	1,263	14.52%
2 福岡県 粕屋町	6,013	8.16%	2 福岡県 久留米市	946	10.88%
3 福岡県 春日市	5,248	7.12%	3 福岡県 筑紫野市	638	7.34%
4 福岡県 新宮町	4,720	6.41%	4 福岡県 古賀市	473	5.44%
5 福岡県 古賀市	4,510	6.12%	5 福岡県 大野城市	471	5.42%

【通学】

市区町村名	流出(人)	構成比	市区町村名	流出(人)	構成比
1 福岡県 太宰府市	1,263	14.52%	1 福岡県 春日市	2,327	7.33%
2 福岡県 久留米市	946	10.88%	2 福岡県 久留米市	1,889	5.95%
3 福岡県 筑紫野市	638	7.34%	3 福岡県 大野城市	1,579	4.97%
4 福岡県 古賀市	473	5.44%	4 福岡県 筑紫野市	1,427	4.49%
5 福岡県 大野城市	471	5.42%	5 福岡県 宗像市	1,304	4.11%

主な流入元

【就業】

市区町村名	流入(人)	構成比	市区町村名	流入(人)	構成比
1 福岡県 春日市	19,754	11.25%	1 福岡県 春日市	2,327	7.33%
2 福岡県 大野城市	16,350	9.31%	2 福岡県 久留米市	1,889	5.95%
3 福岡県 筑紫野市	12,014	6.84%	3 福岡県 大野城市	1,579	4.97%
4 福岡県 粕屋町	9,616	5.48%	4 福岡県 筑紫野市	1,427	4.49%
5 福岡県 那珂川市	9,612	5.47%	5 福岡県 宗像市	1,304	4.11%

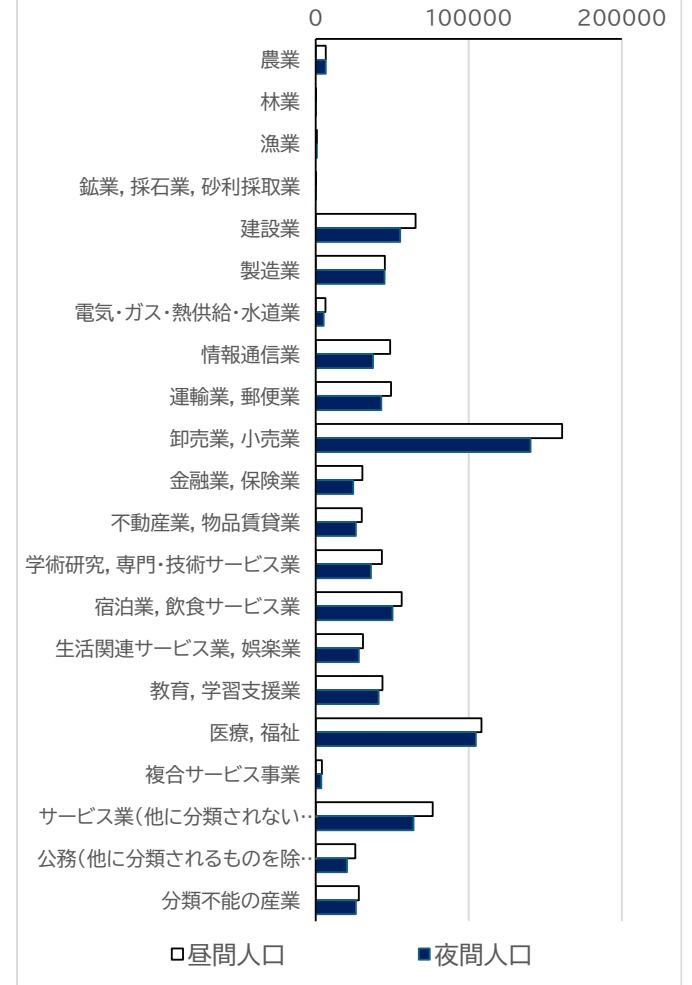
【通学】

市区町村名	流入(人)	構成比	市区町村名	流入(人)	構成比
1 福岡県 春日市	19,754	11.25%	1 福岡県 春日市	2,327	7.33%
2 福岡県 大野城市	16,350	9.31%	2 福岡県 久留米市	1,889	5.95%
3 福岡県 筑紫野市	12,014	6.84%	3 福岡県 大野城市	1,579	4.97%
4 福岡県 粕屋町	9,616	5.48%	4 福岡県 筑紫野市	1,427	4.49%
5 福岡県 那珂川市	9,612	5.47%	5 福岡県 宗像市	1,304	4.11%

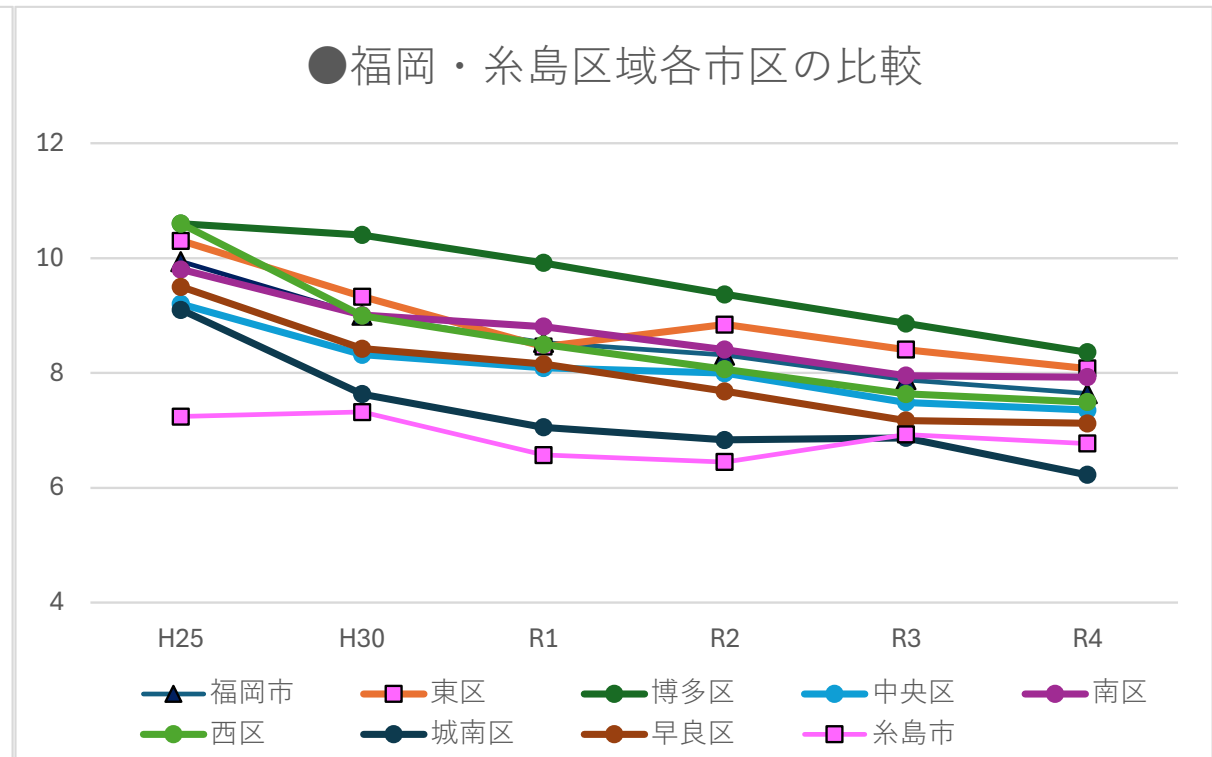
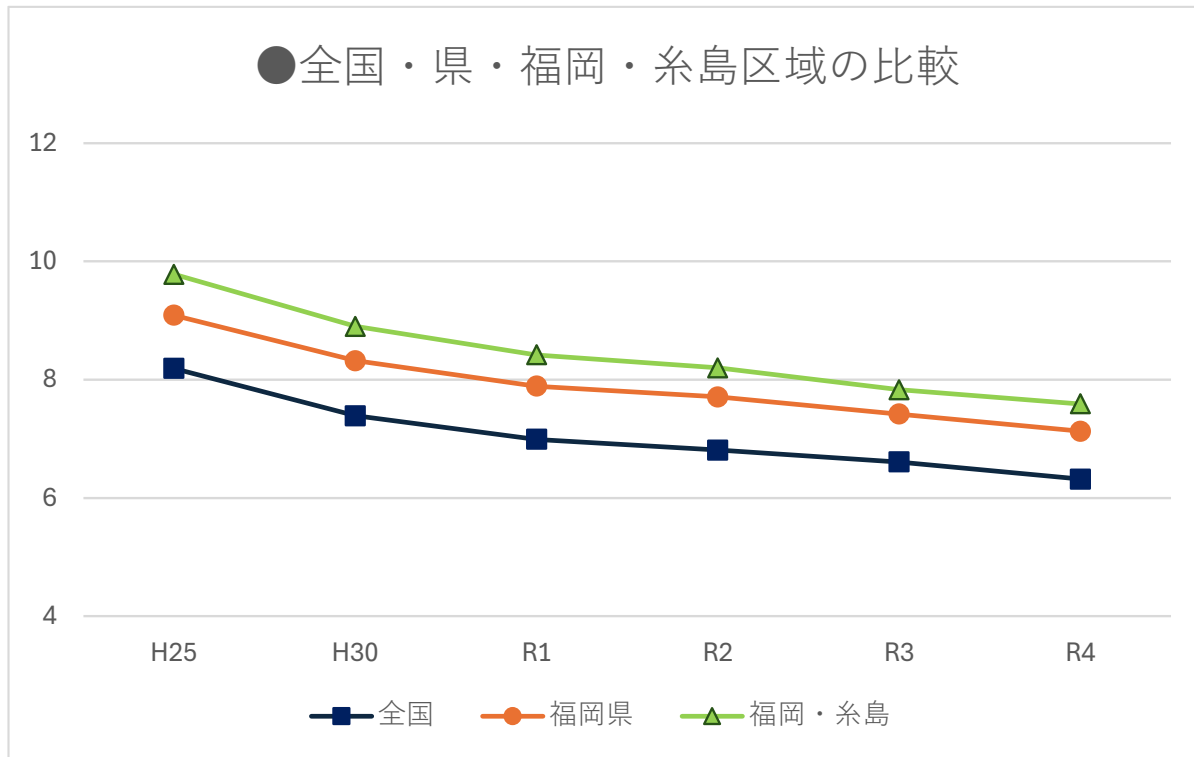
・就業者は、男女とも流入が多い
 ・通学者は、男女ともに流入が多い

産業別に昼間人口を見ると、卸売業・小売業が最も多く、次いで医療・福祉となっている。いずれの業種も夜間人口よりも昼間人口が多いなど、業種にかかわらず他地区から流入している状況がみられる。

表5) 昼間人口・夜間人口

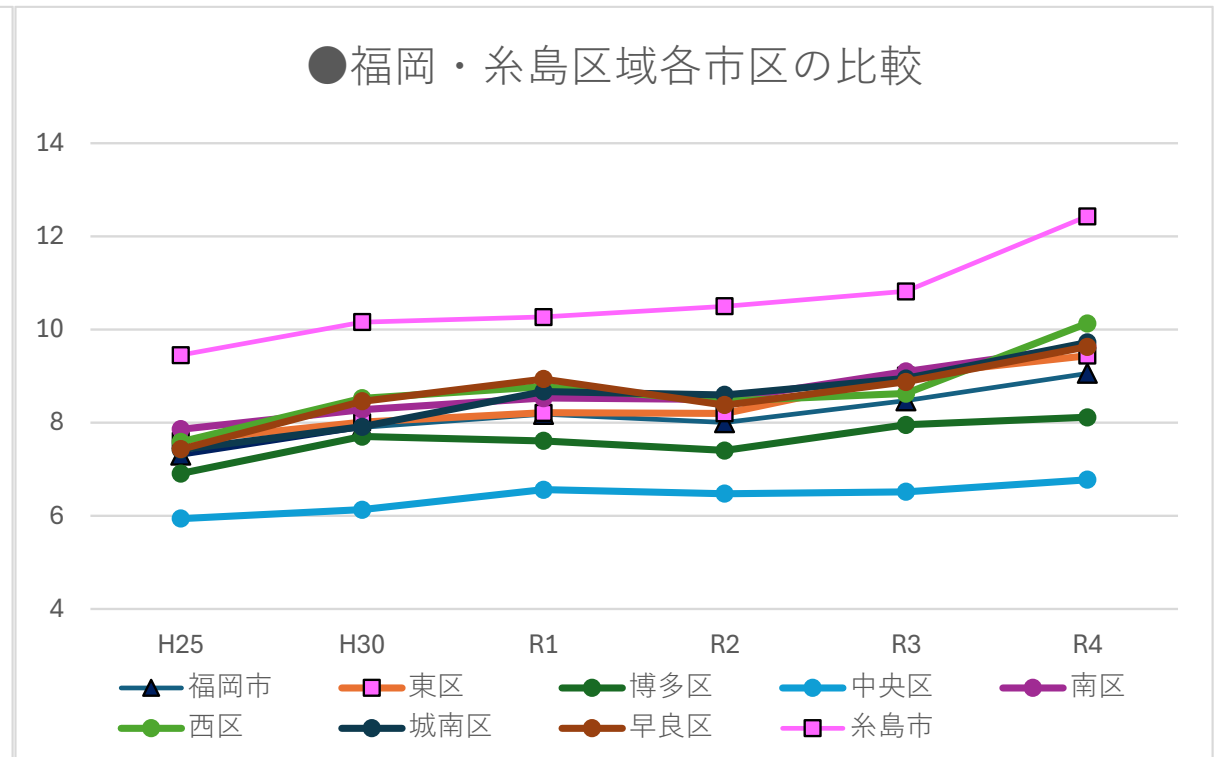
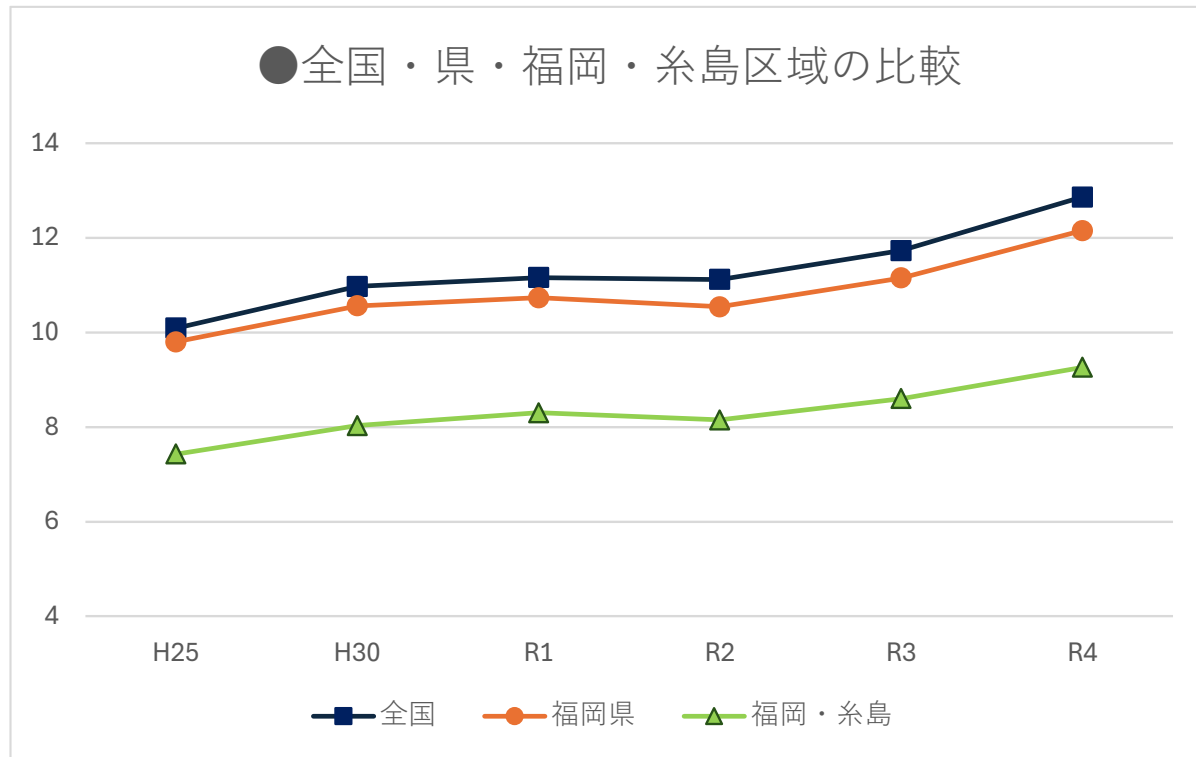


3. 出生率の状況 (「福岡県保健統計年報」)



- ・出生率(人口千対)は、総人口、生産年齢人口の減少もあり、全国、福岡県、福岡・糸島区域とも減少傾向であるが、福岡・糸島区域の出生率は全国、福岡県を大きく上回っている
- ・市区別で見ると、福岡市は低下傾向にあり、糸島市はR3年度に上昇し、R4年度はやや低下した
- ・R4年の出生率は、城南区、早良区以外の福岡市区で県平均(7.1%)よりも高く、最も低いのは城南区の6.2%である

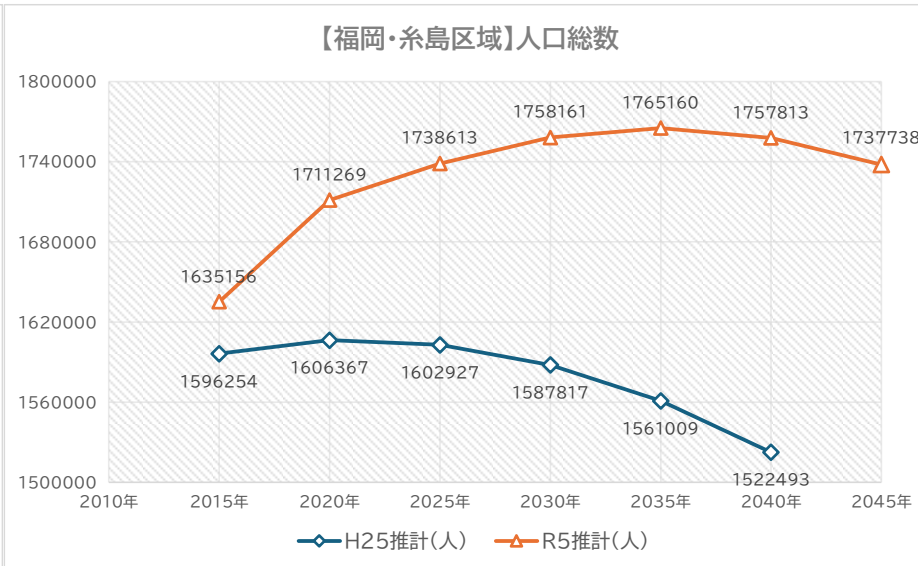
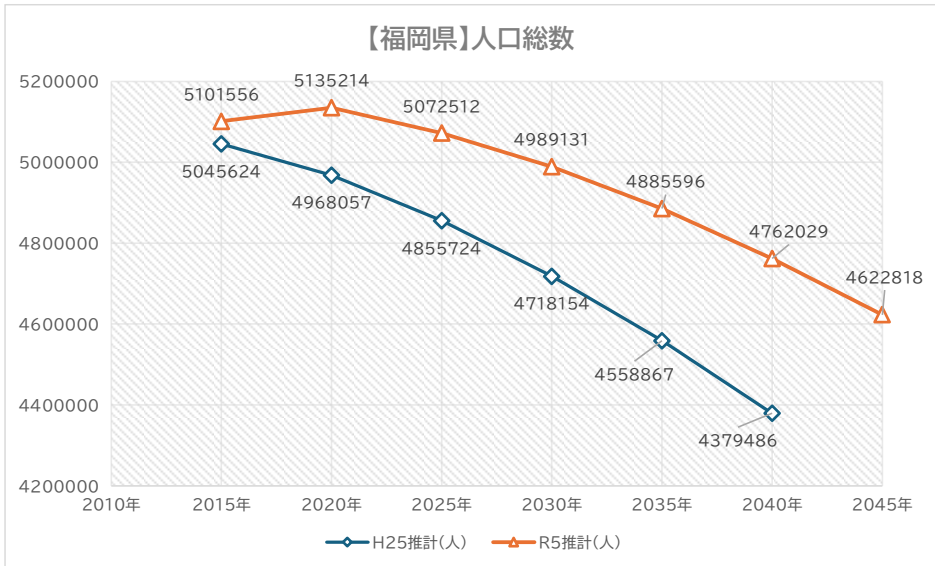
4. 死亡率の状況 (「福岡県保健統計年報」)



・死亡率(人口千対)は、老年人口の増加もあり、全国、福岡県、福岡・糸島区域ともに上昇傾向となっているが、福岡・糸島区域の死亡率は全国、福岡県を大きく下回っている

・福岡市は、老年人口の割合が全国、福岡県と比較してかなり低いものの、死亡率は緩やかに上昇してきている

5. 将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)



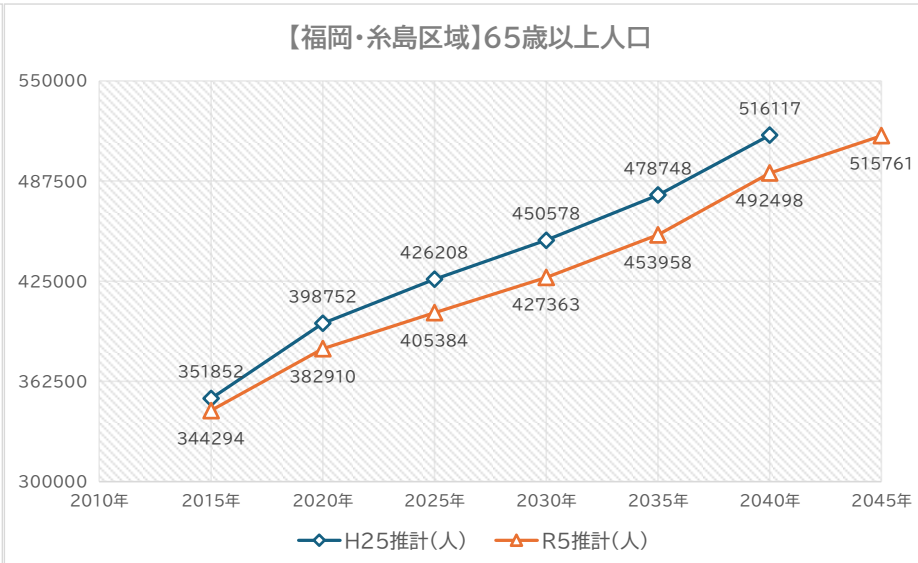
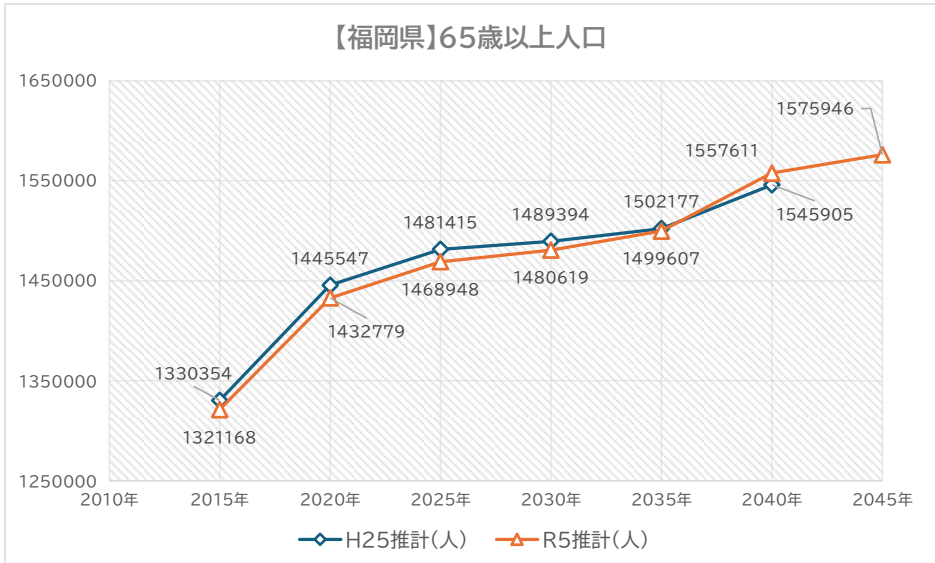
人口総数については、地域医療構想策定当時の推計(H25)と最新の推計(R5)を比べると、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】

当初の推計では、2015年以降現状する見込みであったが、R5推計では、2020年をピークに緩やかに減少する見込み

【福岡・糸島区域】

当初推計との乖離が非常に大きい人口増加のピークは2035年である



65歳以上人口については、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】

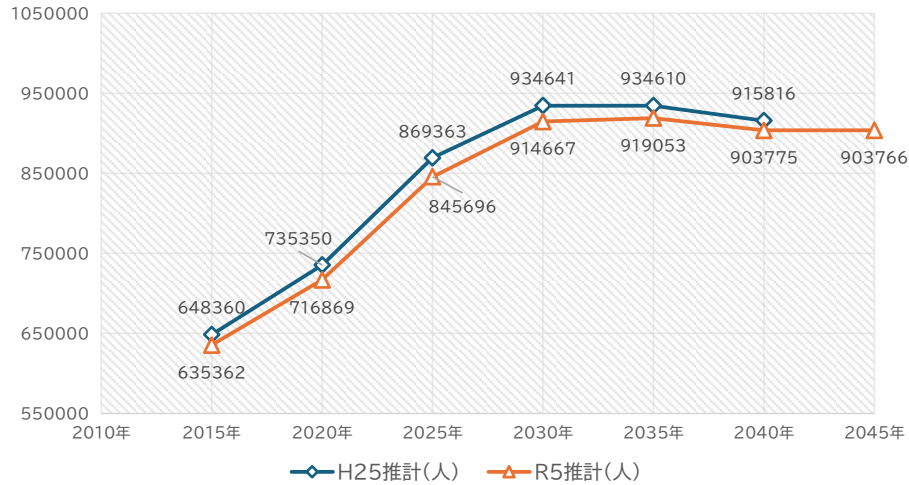
当初の推計と概ね同様の傾向で推移する

【福岡・糸島区域】

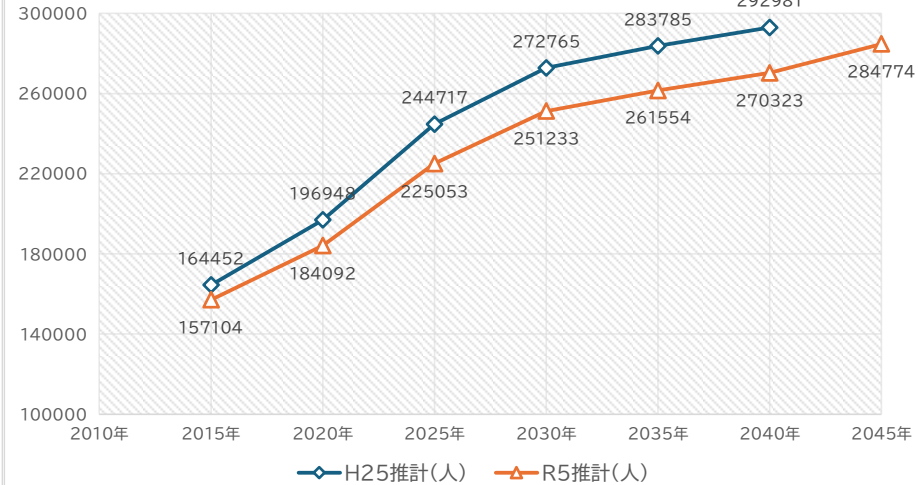
当初推計と同様の傾向で推移するが、徐々に増加傾向が強まる見込み

5. 将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)

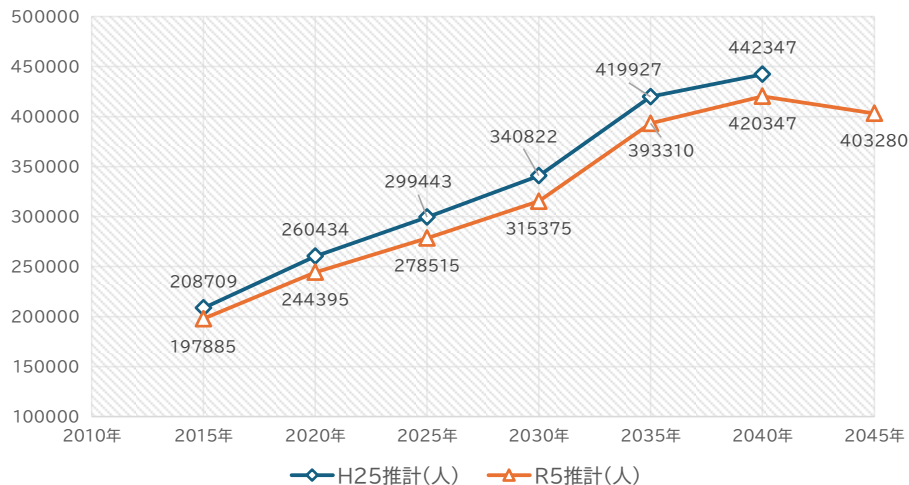
【福岡県】75歳以上人口



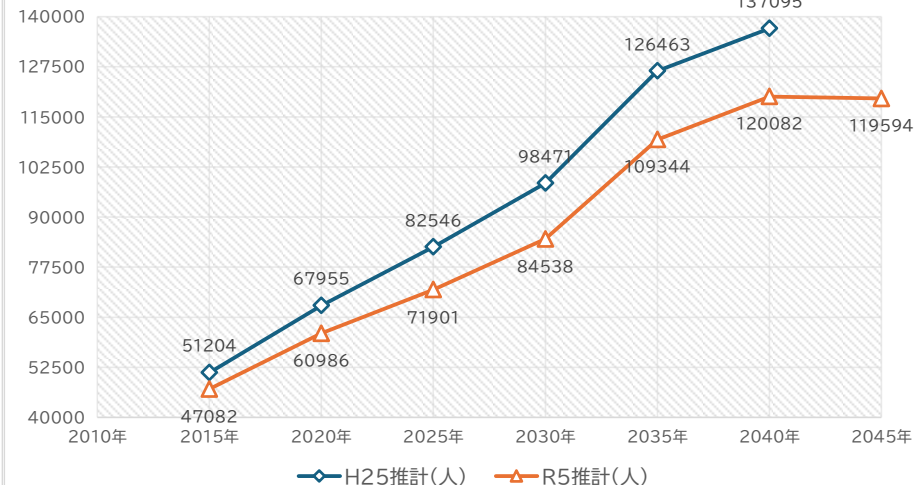
【福岡・糸島区域】75歳以上人口



【福岡県】85歳以上人口



【福岡・糸島区域】85歳以上人口



75歳以上人口については、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】

当初の推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは減少する見込み

【福岡・糸島区域】

当初推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは減少する見込み

85歳以上人口については、以下の状況が読み取れる

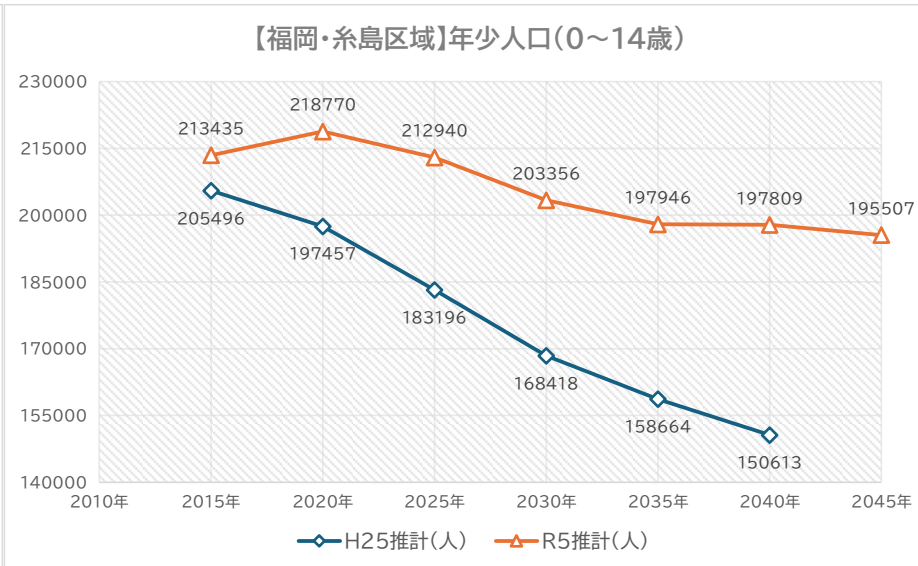
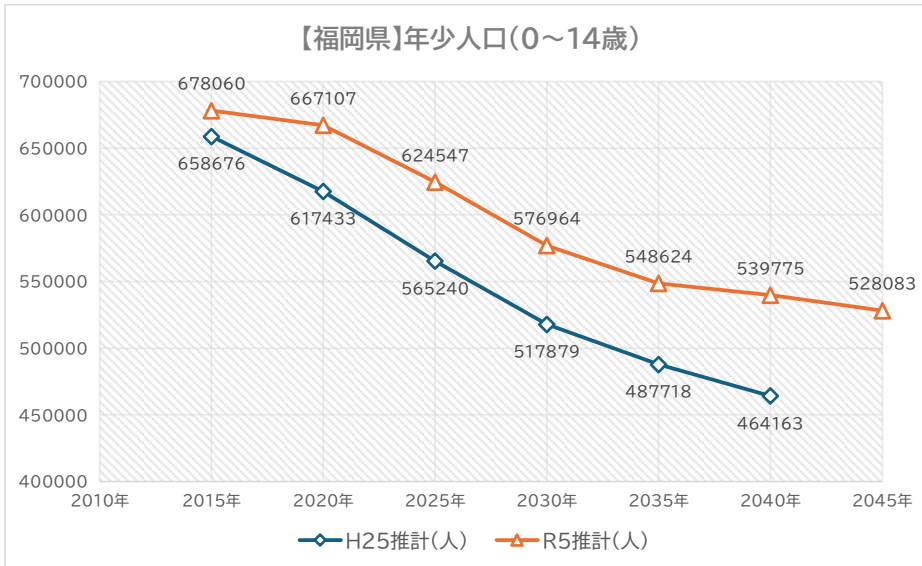
【福岡県全体】

当初の推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは減少する見込み

【福岡・糸島区域】

当初推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは減少する見込み

5. 将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)



年少人口については、以下の状況が読み取れる

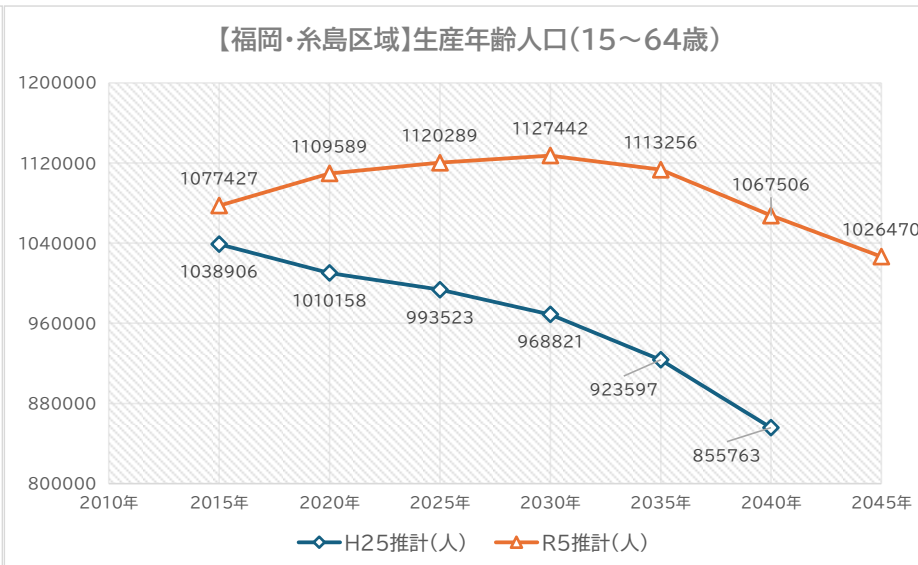
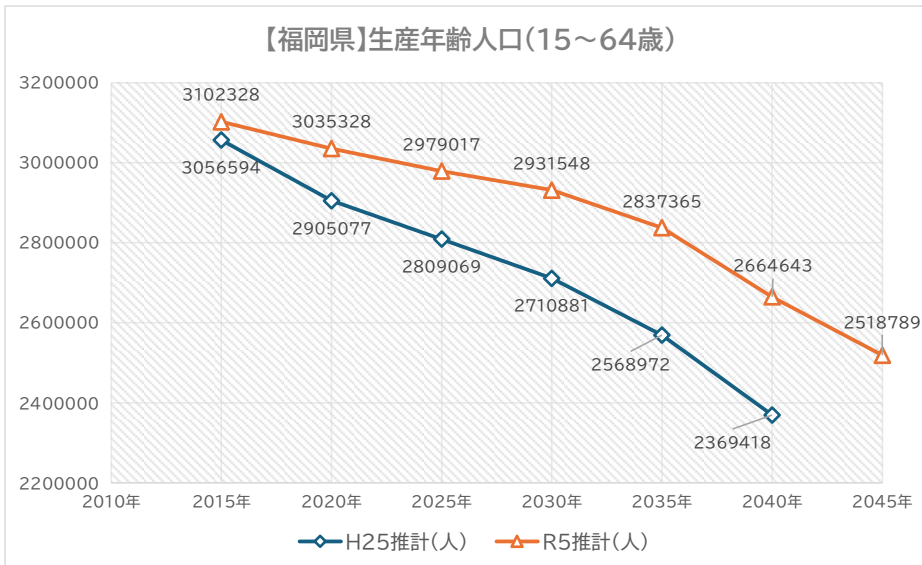
【福岡県全体】

当初の推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは増加する見込み

またR5推計では、2040年にかけて減少のカーブが緩やかになる見込み

【福岡・糸島区域】

当初の推計を大きく上回って推移し、当初推計よりも減少幅は小さい



生産年齢人口については、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】

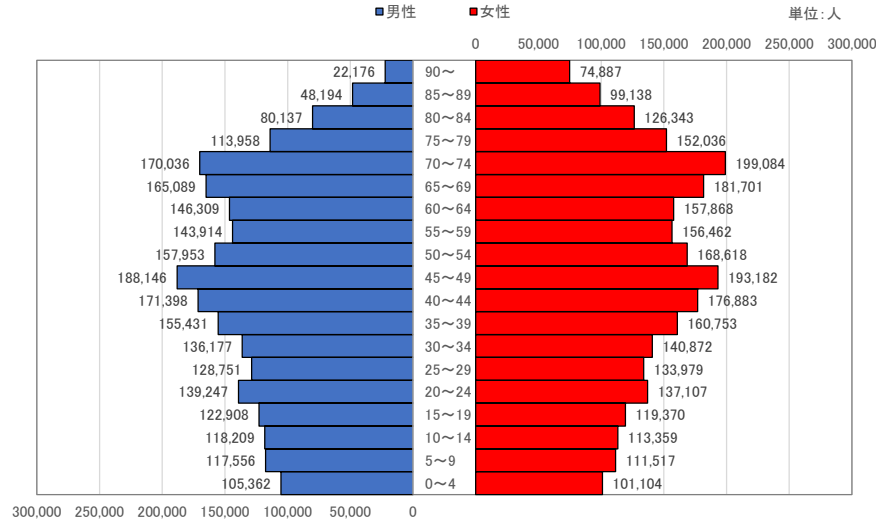
当初の推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは増加する見込み

【福岡・糸島区域】

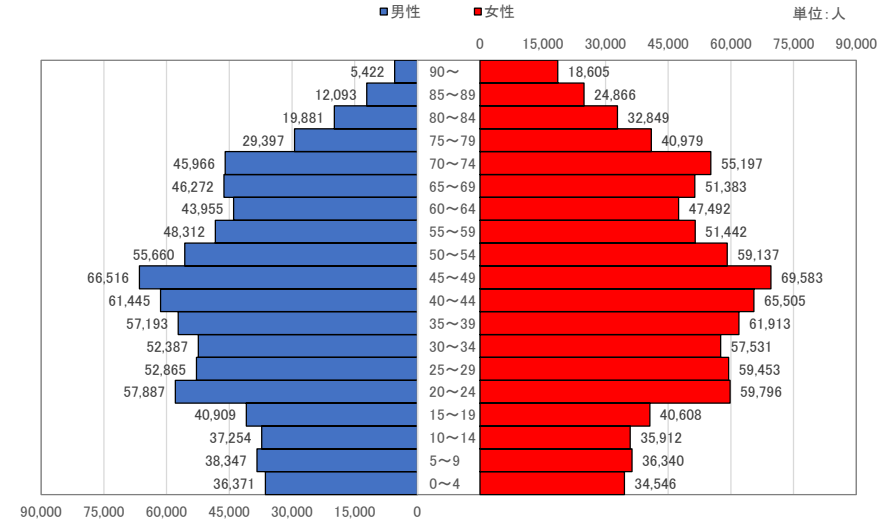
当初の推計を大きく上回って推移し、当初推計よりも減少幅は小さい

5. 将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)

【人口ピラミッドグラフ(福岡県)2020年】



【人口ピラミッドグラフ(福岡・糸島)2020年】



2020(令和2)年の人口ピラミッドからは、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】
第1次ベビーブーム期にあたる71~74歳、第二次ベビーブーム期にあたる45~49歳で2つの人口の山があり、年齢が下がるにつれて人口が少なくなるつぼ型となっている

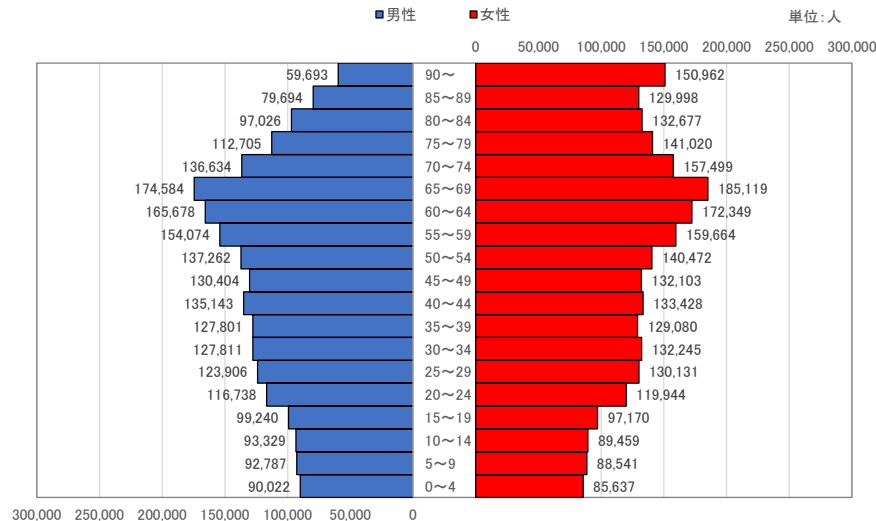
【福岡・糸島区域】
福岡県全体と比較して20代人口のボリュームが大きくなっている

2040(令和22年)の人口ピラミッドからは、以下の状況が読み取れる

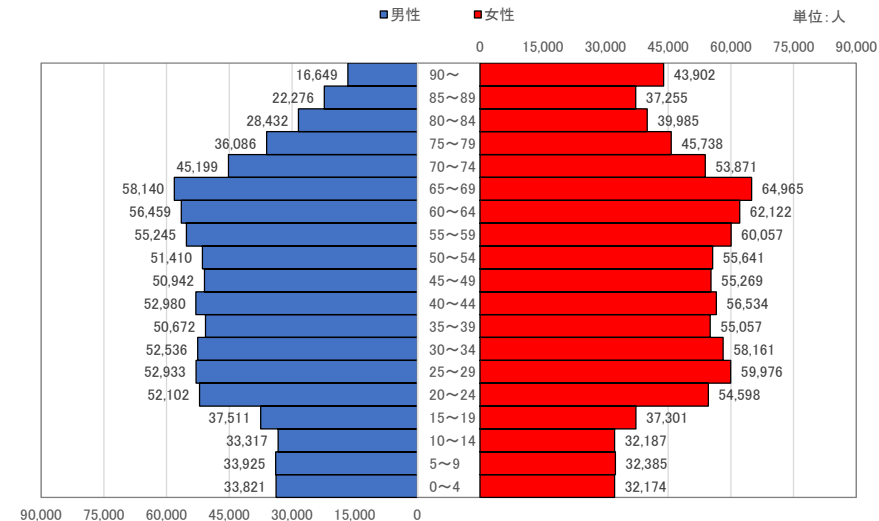
【福岡県全体】
ベビーブーム世代は90歳以上、65~69歳となり、この年代の人口ボリュームを一定程度維持しつつ推移するが、少子化が進むことによって、2020年に比べて年少人口が大きく減少し、より底が狭まったつぼ型となっている

【福岡・糸島区域】
2020年時点に比較して年少人口は減少しているものの、県全体に比べると、年少人口が大幅に減少する状況にはなっていない

【人口ピラミッドグラフ(福岡県)2040年】



【人口ピラミッドグラフ(福岡・糸島)2040年】



6. 市区別将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)

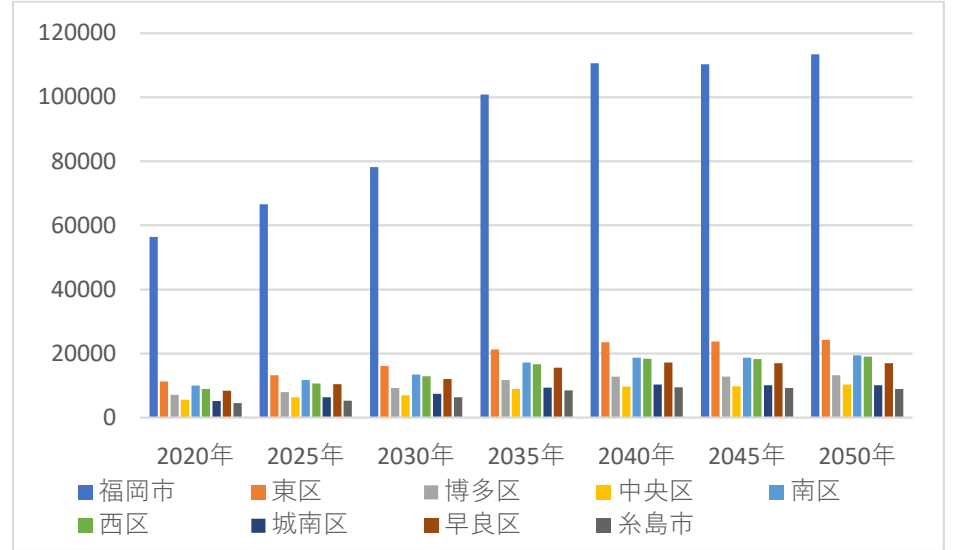
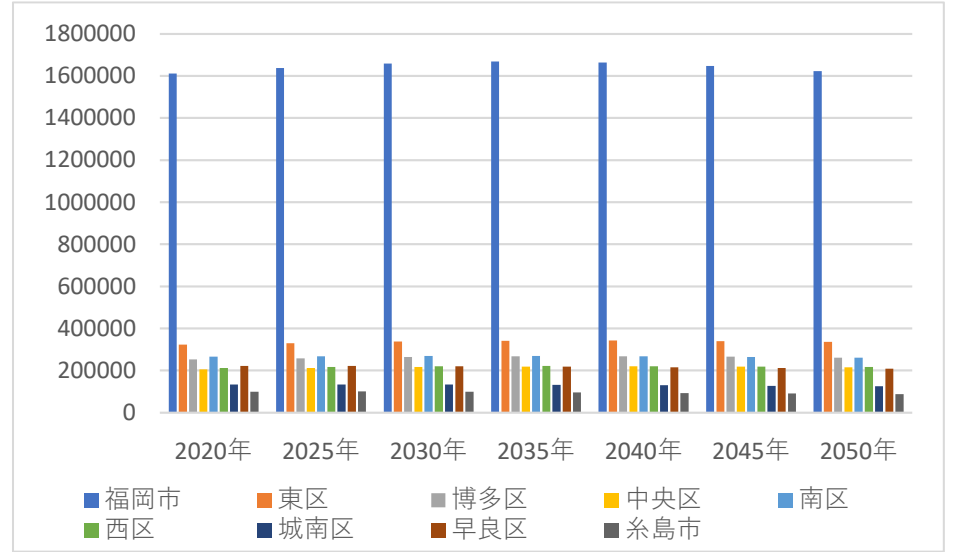
将来の男女5歳階級別推計人口(2020年は国勢調査による実績値)

総数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	減少率 (20→50)
福岡市	1,612,392	1,638,406	1,659,766	1,669,128	1,664,570	1,647,255	1,622,565	-0.6%
東区	322,503	330,259	337,419	341,566	342,329	340,201	336,456	-4.3%
博多区	252,034	257,240	264,024	267,694	268,105	265,490	261,251	-3.7%
中央区	205,501	211,979	216,298	219,115	219,891	218,331	215,117	-4.7%
南区	265,583	267,714	269,267	269,536	268,060	264,954	260,729	1.8%
西区	212,579	217,224	219,753	221,128	220,863	219,010	216,215	-1.7%
城南区	132,864	132,671	132,957	131,980	130,052	127,499	124,969	5.9%
早良区	221,328	221,319	220,048	218,109	215,270	211,770	207,828	6.1%
糸島市	98,877	100,207	98,395	96,032	93,243	90,483	87,977	11.0%
福岡・糸島計	1,711,269	1,738,613	1,758,161	1,765,160	1,757,813	1,737,738	1,710,542	0.0%

- ・城南区、早良区、糸島市は2025年にピークを迎え、以降減少する 福岡市各区では2040年あたりまで増加傾向が続く
- ・福岡・糸島区域全体で見ると、2020年から2050年では人口総数に大きな変化はない

85歳以上	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	増加率 (20→50)
福岡市	56,413	66,644	78,188	100,846	110,618	110,318	113,417	101.0%
東区	11,313	13,236	16,157	21,259	23,564	23,709	24,306	114.9%
博多区	7,057	8,008	9,221	11,759	12,797	12,761	13,224	87.4%
中央区	5,577	6,368	7,007	8,954	9,730	9,763	10,333	85.3%
南区	10,006	11,678	13,439	17,221	18,716	18,719	19,432	94.2%
西区	8,885	10,671	12,924	16,699	18,368	18,302	19,023	114.1%
城南区	5,219	6,307	7,377	9,359	10,301	10,101	10,069	92.9%
早良区	8,356	10,376	12,063	15,595	17,142	16,963	17,030	103.8%
糸島市	4,573	5,257	6,350	8,498	9,464	9,276	8,881	94.2%
福岡・糸島計	60,986	71,901	84,538	109,344	120,082	119,594	122,298	100.5%

- ・福岡市は2050年にピークを迎える見込み、糸島市は2040年にピークを迎え、以降減少する
- ・増加率(2020→2050)を見ると、東区、西区、早良区で100%を超えており、糸島市は94.2%である



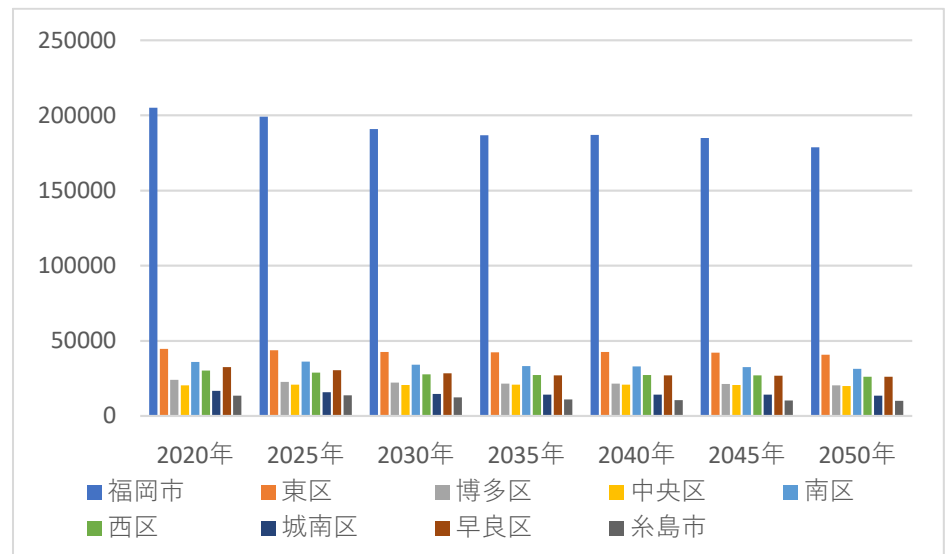
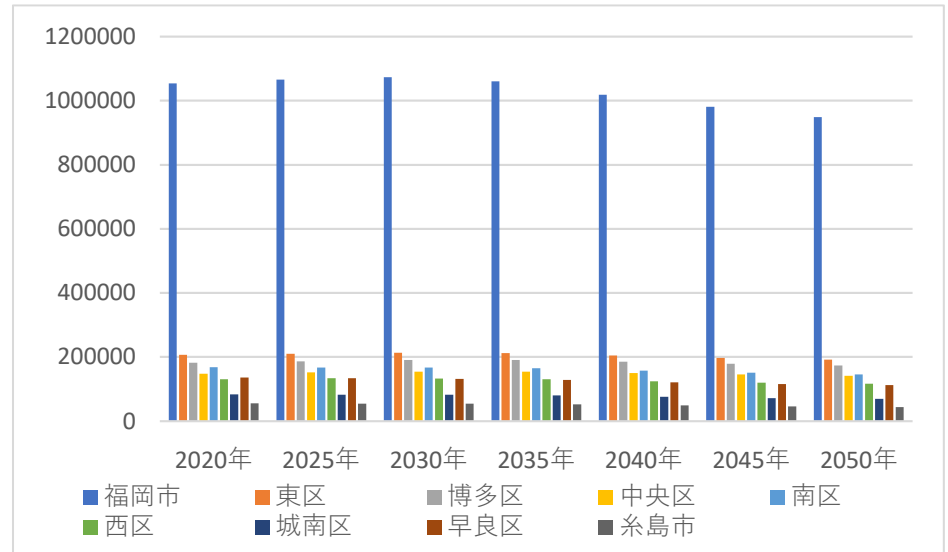
6. 市区別将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)

生産年齢人口 (15~64歳)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	減少率 (20→50)
福岡市	1,054,071	1,065,432	1,073,572	1,060,702	1,018,530	980,644	948,795	10.0%
東区	206,347	210,254	213,473	211,981	204,256	197,429	191,673	7.1%
博多区	181,915	186,089	190,571	191,025	185,445	179,334	173,380	4.7%
中央区	147,628	152,611	154,587	154,098	149,945	145,431	140,891	4.6%
南区	167,911	167,505	167,503	164,755	157,435	150,783	145,108	13.6%
西区	130,973	133,288	133,169	130,360	124,664	120,006	116,497	11.1%
城南区	83,649	82,329	82,378	80,159	75,635	71,849	69,290	17.2%
早良区	135,648	133,356	131,891	128,324	121,150	115,812	111,956	17.5%
糸島市	55,518	54,857	53,870	52,554	48,976	45,826	43,247	22.1%
福岡・糸島計	1,109,589	1,120,289	1,127,442	1,113,256	1,067,506	1,026,470	992,042	10.6%

- ・いずれの市区も2050年に向けて減少傾向であり、2020年から2050年の減少率は、人口総数より大きい割合となっている
- ・減少率を市区別で見ると、福岡市区で10%台、糸島市で22.1%と、糸島市の減少幅が大きい

年少人口 (15歳未満)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	減少率 (20→50)
福岡市	205,089	199,110	191,000	186,914	187,162	185,066	178,793	12.8%
東区	44,644	43,898	42,738	42,374	42,573	42,175	40,809	8.6%
博多区	24,192	22,665	22,323	21,604	21,666	21,322	20,472	15.4%
中央区	20,446	20,884	20,784	20,822	20,949	20,776	20,092	1.7%
南区	36,109	36,310	34,276	33,245	33,036	32,590	31,479	12.8%
西区	30,337	28,926	27,661	27,384	27,426	27,099	26,153	13.8%
城南区	16,709	15,804	14,774	14,340	14,364	14,159	13,669	18.2%
早良区	32,652	30,623	28,444	27,145	27,148	26,945	26,119	20.0%
糸島市	13,681	13,830	12,356	11,032	10,647	10,441	10,191	25.5%
福岡・糸島計	218,770	212,940	203,356	197,946	197,809	195,507	188,984	13.6%

- ・いずれの市区も2050年に向けて減少傾向であり、2020年から2050年の減少率は、人口総数より大きい割合となっている
- ・減少率を市区別で見ると、早良区で20.0%、糸島市で25.5%と、糸島市の減少幅が大きい



7. SCRの状況 (SCRが100以上の項目の割合)

Standardized Claim-data Ratio: レセプト上に現れる各診療行為の算定回数を、都道府県の年齢構成の違いを調整し、出現比として指数化したもの
 全国平均と同じ診療回数が行われた場合には指数が100となる

(県全体)	入院	外来	入院+外来	(福岡・糸島地域)	入院	外来	入院+外来
A 基本診療科	86.8%	50.0%	60.0%	A 基本診療科	79.4%	66.7%	80.0%
B 医学管理等	76.9%	46.2%	63.6%	B 医学管理等	83.3%	53.8%	63.6%
C 在宅医療	54.5%	45.5%	40.6%	C 在宅医療	69.7%	77.4%	75.0%
D 検査	65.7%	32.8%	46.0%	D 検査	80.9%	56.0%	66.7%
E 画像	100.0%	60.0%	70.0%	E 画像	100.0%	100.0%	100.0%
F 投薬	100.0%	25.0%	33.3%	F 投薬	100.0%	25.0%	33.3%
G 注射	62.5%	50.0%	76.9%	G 注射	75.0%	80.0%	84.6%
H リハビリテーション	75.0%	62.5%	75.0%	H リハビリテーション	85.7%	87.5%	87.5%
I 精神	66.7%	71.4%	50.0%	I 精神	50.0%	50.0%	50.0%
J 処置	66.3%	46.7%	67.1%	J 処置	61.3%	52.2%	67.1%
K 手術	76.1%	45.2%	73.6%	K 手術	84.7%	55.9%	83.6%
L 麻酔	60.0%	42.9%	58.3%	L 麻酔	80.0%	50.0%	66.7%
M 放射線治療	100.0%	40.0%	100.0%	M 放射線治療	80.0%	80.0%	100.0%
N 病理診断	100.0%	42.9%	85.7%	N 病理診断	87.5%	85.7%	100.0%

・SCRが100以上の項目数は、以下のとおり(A~Nの全数)

[県全体]入院:545(73.3%)、外来:232(43.5%)、入院+外来:255(60.7%)

[福岡・糸島]入院:590(79.7%)、外来:317(59.6%)、入院+外来311(74.0%)

・A~Nの分野ごとに見ると、SCRが100を超える項目が多く、福岡・糸島区域では「画像」、「投薬」の分野で100を超えている

7. SCRの状況 (SCRが90未満の項目の割合)

Standardized Claim-data Ratio: レセプト上に現れる各診療行為の算定回数を、都道府県の年齢構成の違いを調整し、出現比として指数化したもの
 全国平均と同じ診療回数が行われた場合には指数が100となる

(県全体)	入院	外来	入院+外来	(福岡・糸島地域)	入院	外来	入院+外来
A 基本診療科	10.3%	33.3%	20.0%	A 基本診療科	17.6%	16.7%	0.0%
B 医学管理等	23.1%	46.2%	27.3%	B 医学管理等	16.7%	38.5%	27.3%
C 在宅医療	36.4%	36.4%	37.5%	C 在宅医療	24.2%	18.9%	15.6%
D 検査	24.1%	47.0%	38.1%	D 検査	15.4%	33.6%	22.2%
E 画像	0.0%	20.0%	20.0%	E 画像	0.0%	0.0%	0.0%
F 投薬	0.0%	75.0%	33.3%	F 投薬	0.0%	75.0%	66.7%
G 注射	31.3%	31.3%	15.4%	G 注射	18.8%	13.3%	7.7%
H リハビリテーション	25.0%	25.0%	25.0%	H リハビリテーション	14.3%	12.5%	12.5%
I 精神	33.3%	21.4%	37.5%	I 精神	41.7%	42.9%	37.5%
J 処置	25.0%	42.2%	22.9%	J 処置	33.8%	40.0%	20.0%
K 手術	13.7%	43.9%	15.5%	K 手術	11.7%	39.5%	11.8%
L 麻酔	33.3%	57.1%	41.7%	L 麻酔	20.0%	50.0%	33.3%
M 放射線治療	0.0%	60.0%	0.0%	M 放射線治療	20.0%	20.0%	0.0%
N 病理診断	0.0%	28.6%	0.0%	N 病理診断	0.0%	14.3%	0.0%

・SCRが90を下回る項目数は、以下のとおり(A~Nの全数)

[県全体]入院:137(18.4%)、外来:226(42.4%)、入院+外来:112(26.7%)

[福岡・糸島]入院:122(16.5%)、外来:178(33.9%)、入院+外来:74(17.6%)

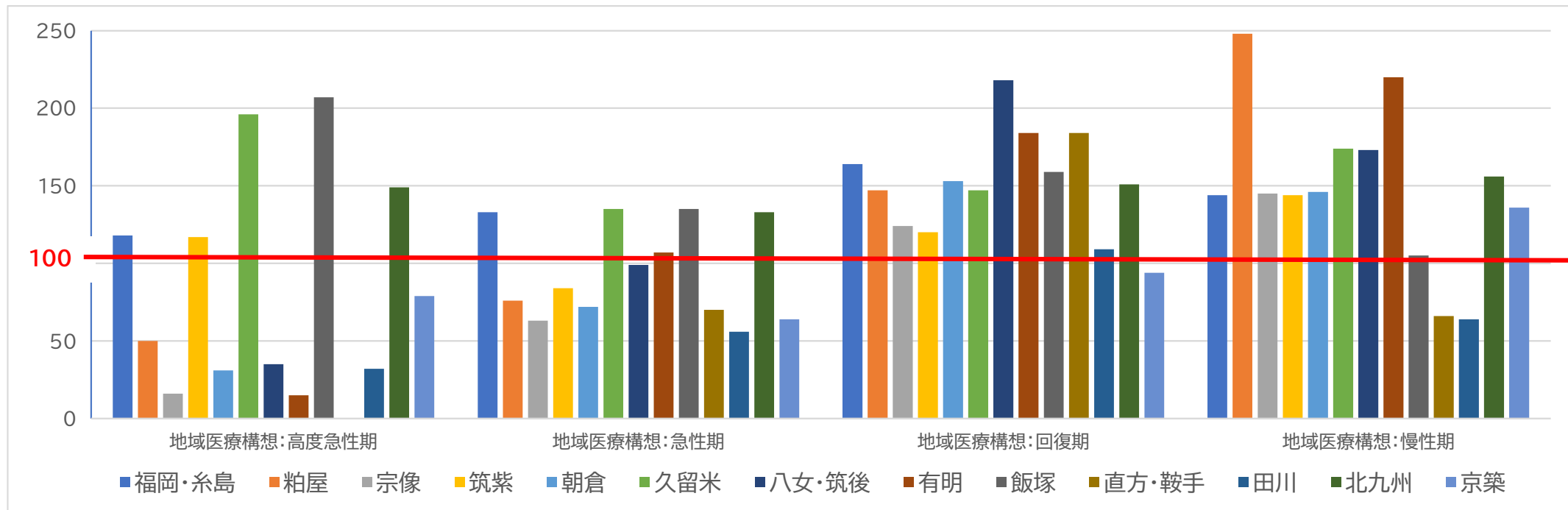
・福岡・糸島区域では、90を下回る項目は少ない傾向がある

7. SCRの状況 (各圏域ごとの比較①)

※ 内閣府令和4年度診療分・二次医療圏別診療行為特別集計(東北大学藤森教授)

(独自の指標を作成し、それぞれ関連する診療行為コードを集計し、数値化したもの)

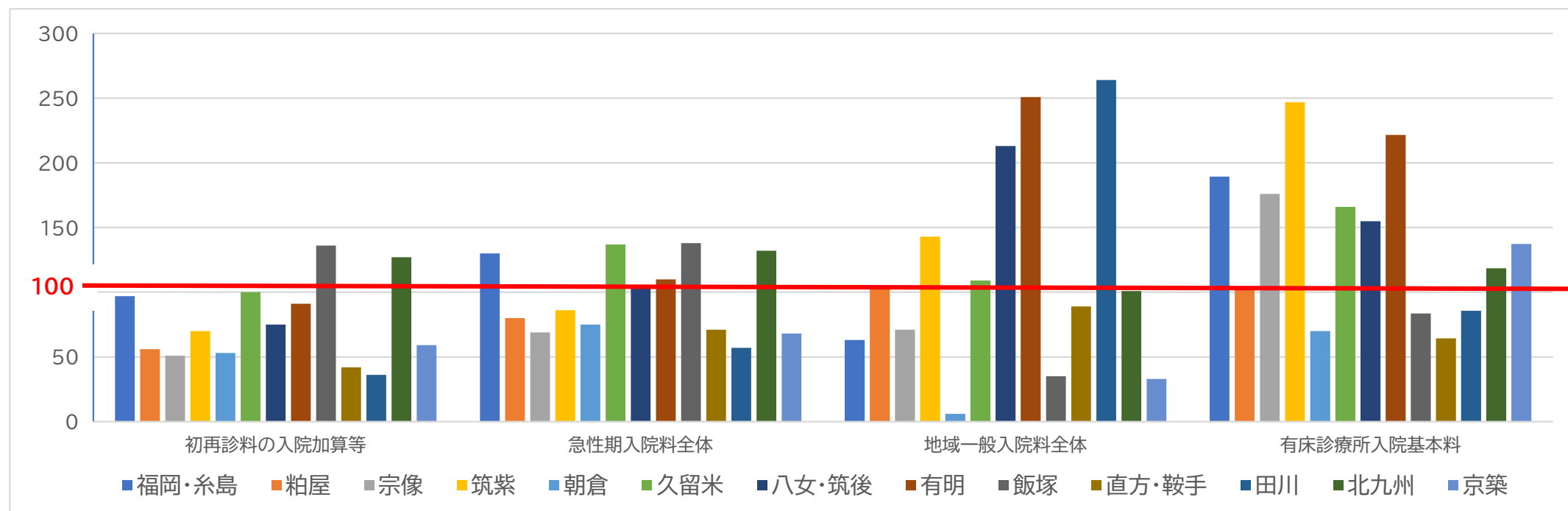
	福岡・糸島	粕屋	宗像	筑紫	朝倉	久留米	八女・筑後	有明	飯塚	直方・鞍手	田川	北九州	京築
地域医療構想:高度急性期	118	50	16	117	31	196	35	15	207		32	149	79
地域医療構想:急性期	133	76	63	84	72	135	99	107	135	70	56	133	64
地域医療構想:回復期	164	147	124	120	153	147	218	184	159	184	109	151	94
地域医療構想:慢性期	144	248	145	144	146	174	173	220	105	66	64	156	136



7. SCRの状況 (各圏域ごとの比較②)

※ 内閣府令和4年度診療分・二次医療圏別診療行為特別集計(東北大学藤森教授)
 (独自の指標を作成し、それぞれ関連する診療行為コードを集計し、数値化したもの)

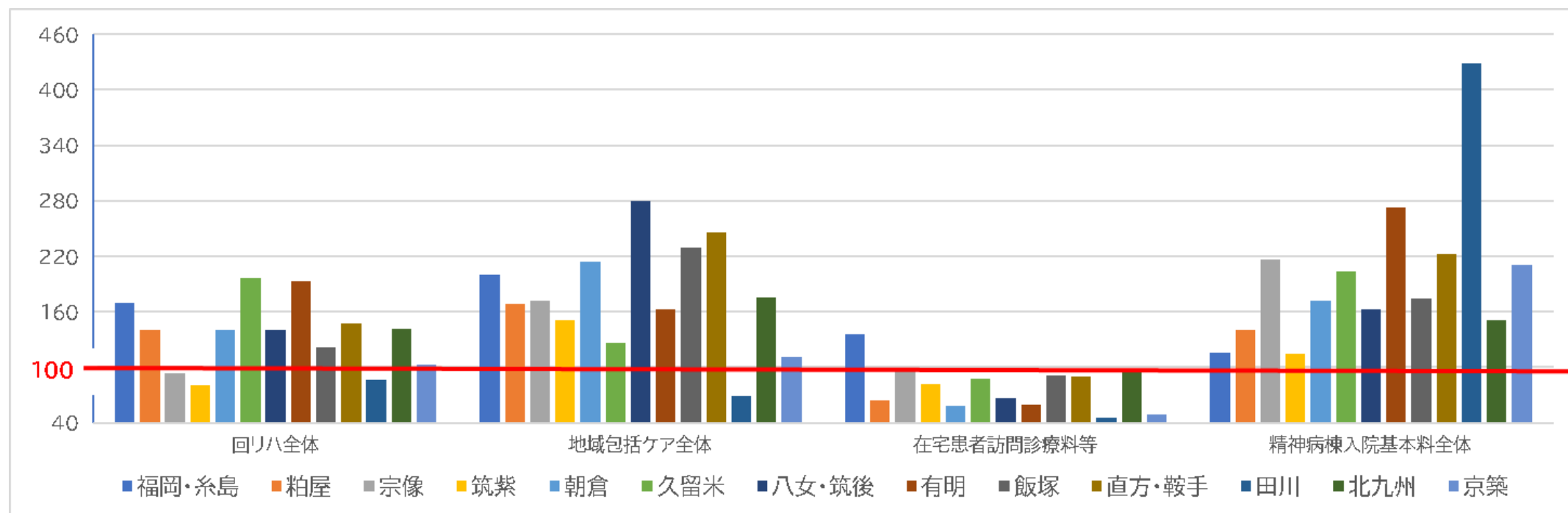
	福岡・糸島	粕屋	宗像	筑紫	朝倉	久留米	八女・筑後	有明	飯塚	直方・鞍手	田川	北九州	京築
初再診料の入院加算等	97	56	51	70	53	100	75	91	136	42	36	127	59
急性期入院料全体	130	80	69	86	75	137	105	110	138	71	57	132	68
地域一般入院料全体	63	103	71	143	6	109	213	251	35	89	264	101	33
有床診療所入院基本料	190	103	176	247	70	166	155	222	84	64	86	119	137



7. SCRの状況 (各圏域ごとの比較③)

※ 内閣府令和4年度診療分・二次医療圏別診療行為特別集計(東北大学藤森教授)
 (独自の指標を作成し、それぞれ関連する診療行為コードを集計し、数値化したもの)

	福岡・糸島	粕屋	宗像	筑紫	朝倉	久留米	八女・筑後	有明	飯塚	直方・鞍手	田川	北九州	京築
回り八全体	170	140	94	80	140	196	140	193	122	147	86	141	103
地域包括ケア全体	200	168	172	151	214	126	280	163	229	246	69	175	111
在宅患者訪問診療料等	136	64	99	82	58	88	66	60	91	90	46	98	49
精神病棟入院基本料全体	116	140	216	114	172	204	162	273	174	222	429	151	211



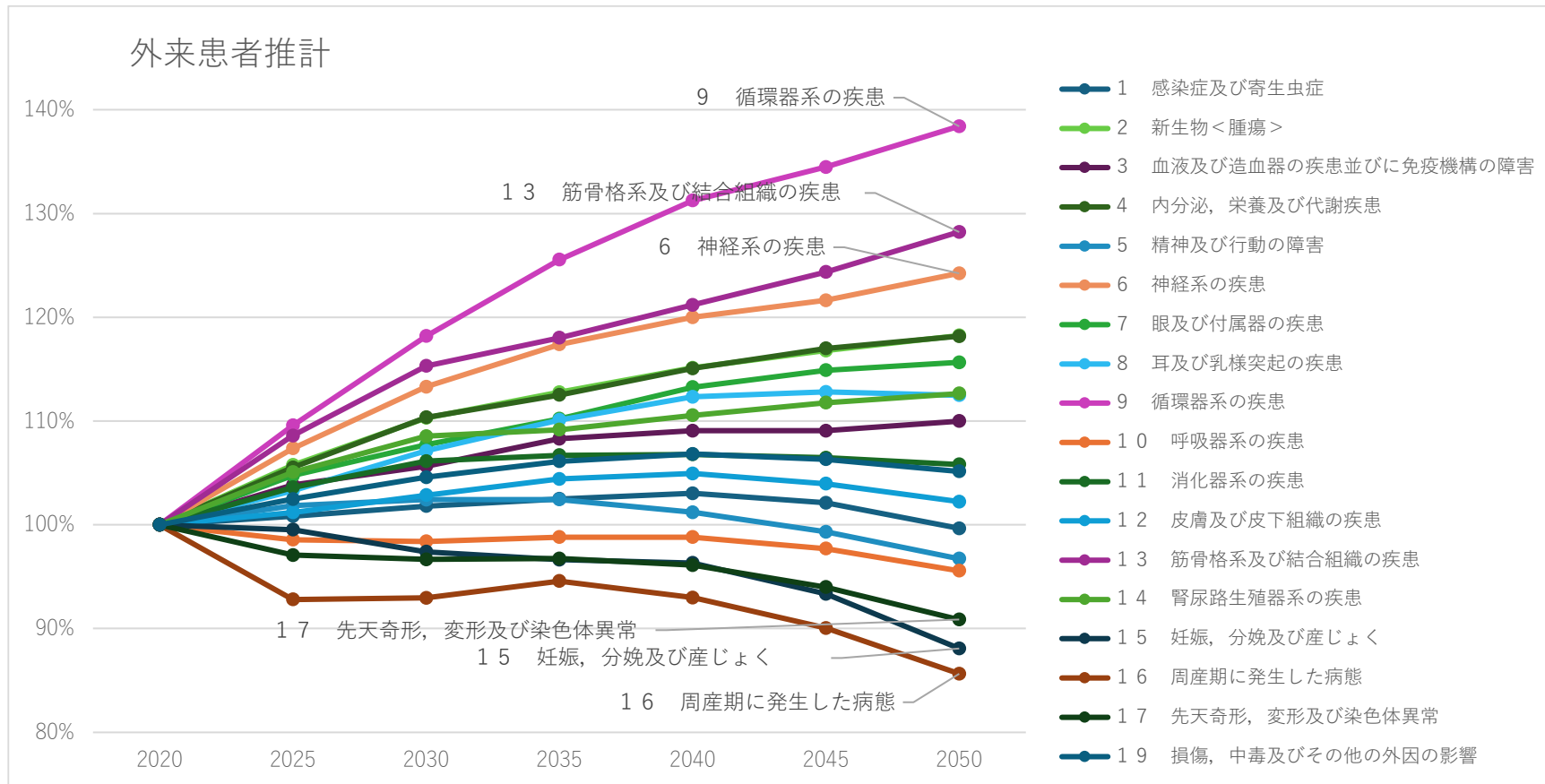
8. 患者推計 (産業医科大学:地域別人口変化分析ツールAll Japan Areal Population-change Analyses(AJAPA))

福岡・糸島区域(市区町村別の患者推計は、別紙資料1を参照)

【外来患者推計】

循環器系、筋骨格系神経系、神経系、内分泌、栄養及び代謝疾患、眼科については、2050年頃まで増加が続くが、周産期、妊娠・分娩、精神及び行動の障害、呼吸器系は減少していく見込み

それ以外については、おおむね横ばいで推移する見込み



2020年を基準とした外来患者総数は、2050年まで増加傾向で推移するものと思料

・増加率が大きい主な疾病は、次のとおり

- 系列9〔循環器系の疾患〕
(対応する診療科)
→循環器内科、心臓血管外科
- 系列13〔筋骨格系及び結合組織の疾患〕
(対応する診療科)
→外科、整形外科、リウマチ科
- 系列6〔神経系の疾患〕
(対応する診療科)
→神経内科、脳神経外科

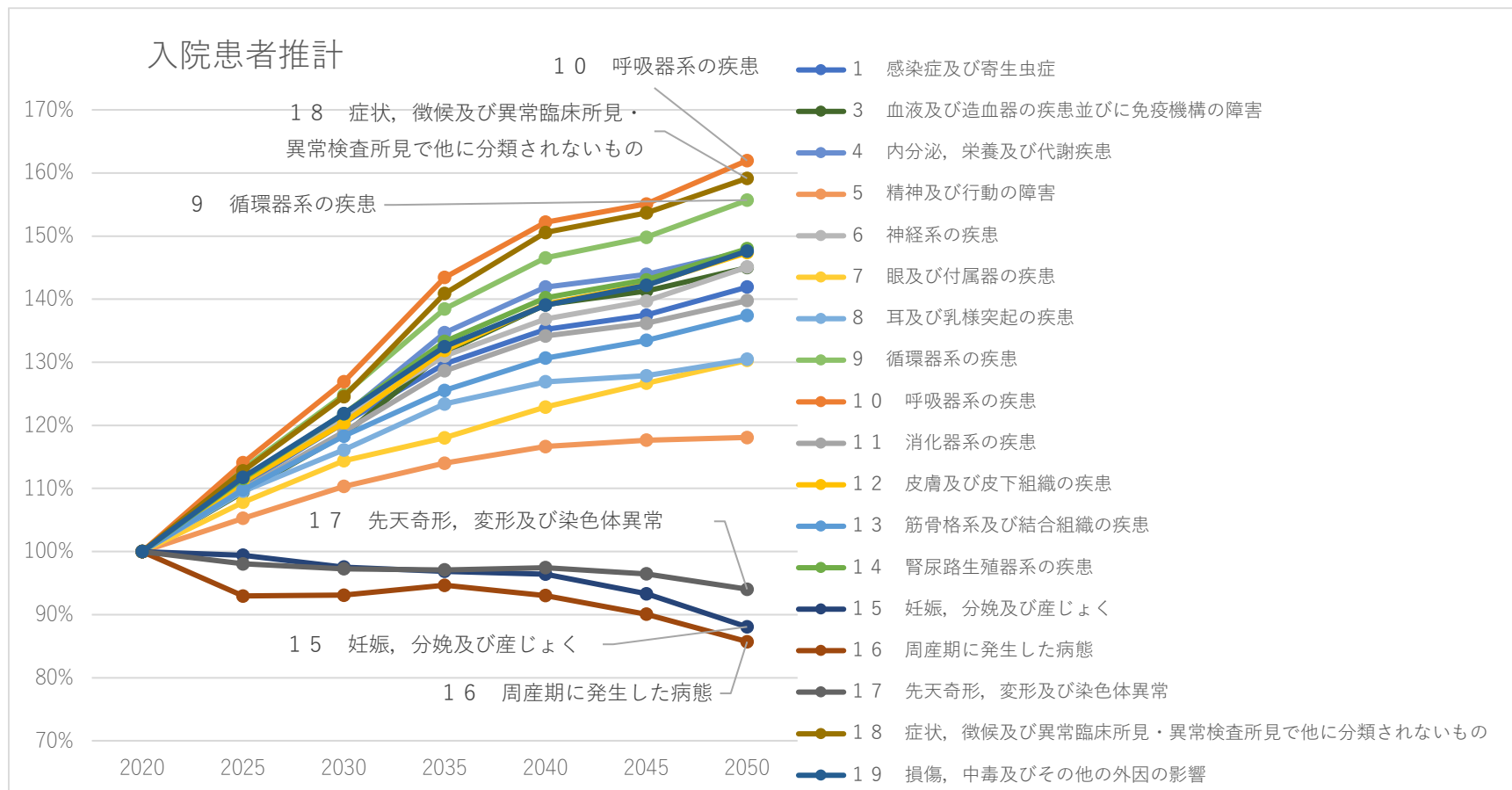
・減少率が大きい主な疾病は、次のとおり

- 系列16〔周産期に発生した病態〕
- 系列15〔妊娠、分娩及び産じょく〕
(対応する診療科)
→産婦人科、産科、婦人科
- 系列17〔先天奇形、変形及び染色体異常の疾患〕
(対応する診療科)
→小児科、小児外科
- 系列5〔精神及び行動の障害の疾患〕
(対応する診療科)
→精神科、心療内科
- 科系列10〔呼吸器系の疾患〕
(対応する診療科)
→呼吸器内科、呼吸器外科

8. 患者推計 (産業医科大学:地域別人口変化分析ツールAll Japan Areal Population-change Analyses(AJAPA))

【入院患者推計】

周産期、妊娠・分娩系小児科系以外は2050年頃まで増加が続く見込み



2020年を基準とした入院患者総数は、2050年まで増加傾向で推移するものと思料

・2050年時点で、増加率が大きい主な疾病は、次のとおり

- 系列10〔呼吸器系の疾患〕
(対応する診療科)
→呼吸器内科、呼吸器外科
- 系列9〔循環器系の疾患〕
(対応する診療科)
→循環器内科、心臓血管外科
- 系列14〔腎尿路生殖器系の疾患〕
(対応する診療科)
→腎臓内科、泌尿器科、婦人科
- 系列4〔内分泌、栄養及び代謝疾患〕
(対応する診療科)
→糖尿病内科(代謝内科)
- 系列19〔損傷、中毒及びその他の外因の影響〕
(対応する診療科)
→外科、整形外科、形成外科

・2050年時点で、減少率が大きい主な疾病は、次のとおり

- 系列16〔周産期に発生した病態〕
- 系列15〔妊娠、分娩及び産じょく〕
→産婦人科、産科、婦人科
- 系列17〔先天奇形、変形及び染色体異常の疾患〕
(対応する診療科)
→小児科、小児外科

9. 医療従事者数〔医師〕（令和4年「医師・歯科医師・薬剤師調査」）※人口：福岡県人口移動調査（R4.12.1）

		医師数	人口10万人当たり
福岡市		6,104	374.2
	病院	4,245	260.2
	診療	1,859	114.0
東区		1,675	509.0
	病院	1,395	423.9
	診療	280	85.1
博多区		675	264.3
	病院	329	128.8
	診療	346	135.5
中央区		1,246	592.4
	病院	733	348.5
	診療	513	243.9
南区		809	301.8
	病院	590	220.1
	診療	219	81.7
西区		437	205.6
	病院	268	126.1
	診療	169	79.5
城南区		727	545.9
	病院	611	458.8
	診療	116	87.1
早良区		535	240.1
	病院	319	143.2
	診療	216	96.9
糸島市		166	166.3
	病院	64	64.1
	診療	102	102.2
福岡・糸島 計		6,270	362.2
	病院	4,309	248.9
	診療	1,961	113.3
福岡県 計		15,968	312.0
	病院	11,025	215.4
	診療	4,943	96.6

◆医師偏在指標及び県内・全国順位（県内二次保健医療圏、周産期医療圏、小児科）

		医師偏在指標		
		数値	県内順位	全国順位
医師全体	福岡県	313.3	—	3/47
	福岡・糸島	399.0	2/13	6/330
	粕屋	220.7	7/13	105/330
	筑紫	224.7	6/13	97/330
産科	福岡県	11.0	—	12/47
	福岡	10.4	3/4	94/258
	筑後	11.6	2/4	71/258
	筑豊	8.7	4/4	147/258
	北九州	12.7	1/4	53/258
小児科	福岡県	122.0	—	16/47
	福岡・糸島	128.1	3/13	75/303
	粕屋	81.7	11/13	250/303
	筑紫	85.0	10/13	228/303

「福岡県医師確保計画（令和6年3月）「医師偏在指標及び県内・全国順位」から抜粋」

- ・人口10万人当たりの医師数で100を切る市はなく、県全体よりも医師数が多い
- ・医師偏在指標を見ても、福岡・糸島区域は、医師全体は県で2位、全国で6位と上位にある
- ・小児科医師についても、県で3位、全国順位でも75位と上位にある

9. 医療従事者数〔医師〕 診療所開設者年齢ピラミッド「公衆衛生等に係る医療の提供状況(令和5年9月福岡県医療指導課)」

年齢階級	福岡・糸島	粕屋	筑紫	福岡県
90 -	9	0	0	23
85 - 89	20	1	2	43
80 - 84	22	2	5	74
75 - 79	59	4	12	208
70 - 74	167	18	31	466
65 - 69	175	24	41	550
60 - 64	201	30	34	544
55 - 59	169	18	27	419
50 - 54	119	11	25	321
45 - 49	108	13	22	243
40 - 44	46	8	11	121
35 - 39	14	0	3	31
30 - 34	6	0	0	9
- 29	1	0	0	1
Total	1116	129	213	3,053

- ・診療所開設者の年齢ピラミッドを見ると、「60-64」が最も多く、「65-69」「55-59」「70-74」が概ね同数である
- ・医師不足や後継者確保(継承)の困難さを鑑みると、10年後、20年後の体制を考えておく必要があるのではないか

10. 医療従事者数〔医師・診療科①〕（令和4年「医師・歯科医師・薬剤師調査」）

外来 入院		増加 増加	増加 増加	増加	減少 増加	減少 減少	増加 増加	増加 増加	増加	減少 減少	増加 増加	増加 増加				
	内科	整形外科	循環器内科	消化器内科 (胃腸内科)	精神科	臨床研修医	小児科	外科	麻酔科	眼科	皮膚科	産婦人科	耳鼻 いんこう科	糖尿病内科 (代謝内科)	放射線科	脳神経内科
福岡市	926	465	332	320	307	308	288	236	233	228	176	172	159	153	148	143
東区	207	120	98	84	87	54	116	83	76	42	33	38	37	57	48	43
博多区	187	49	33	28	22	24	16	35	15	49	25	17	15	11	12	10
中央区	146	73	67	73	48	107	29	38	47	44	46	54	31	27	27	32
南区	119	65	32	43	58	54	38	35	24	23	21	18	21	15	26	12
西区	89	52	18	19	34	1	18	16	12	17	12	12	15	15	5	15
城南区	85	60	43	40	37	55	43	11	37	24	21	17	19	17	21	17
早良区	93	46	41	33	21	13	28	18	22	29	18	16	21	11	9	14
糸島市	52	20	9	6	14	-	8	17	3	5	5	3	4	2	2	1
福岡・糸島	978	485	341	326	321	308	296	253	236	233	181	175	163	155	150	144

外来 入院		減少 増加	増加 増加	増加 増加	増加 増加	増加	増加 増加	増加 増加	増加	増加 増加	増加 増加	減少 増加		減少 増加		
	呼吸器内科	泌尿器科	腎臓内科	消化器外科 (胃腸外科)	脳神経外科	血液内科	美容外科	心臓血管 外科	形成外科	乳腺外科	婦人科	救急科	心療内科	リハビリテー ション科	呼吸器外科	病理診断科
福岡市	134	125	121	116	113	79	74	65	64	58	55	48	46	44	43	41
東区	39	27	34	28	33	35	-	32	19	16	6	10	23	10	18	14
博多区	5	22	11	6	11	4	20	-	2	3	8	2	2	1	5	3
中央区	22	21	21	22	16	16	53	11	19	21	22	12	11	8	3	7
南区	21	18	23	25	11	14	1	4	4	11	14	5	7	11	4	6
西区	21	8	9	-	13	1	-	6	2	2	2	1	1	-	9	1
城南区	14	17	13	23	18	8	-	7	13	3	-	17	-	12	4	8
早良区	12	12	10	12	11	1	-	5	5	2	3	1	2	2	-	2
糸島市	1	4	1	-	2	1	-	-	1	2	-	-	1	-	1	-
福岡・糸島	135	129	122	116	115	80	74	65	65	60	55	48	47	44	44	41

※スライド21・22を基に、今後患者が増えていく見込みの診療科（入院・外来）は「増加」、減少していく見込みの診療科は「減少」としている

10. 医療従事者数〔医師・診療科②〕（令和4年「医師・歯科医師・薬剤師調査」）

外来 入院	増加		減少		減少		減少		増加			
	増加	減少	減少	増加	減少	増加	減少	増加	全科	その他	不詳	
	リウマチ科	小児外科	感染症内科	産科	集中治療科	肛門外科	臨床検査科	アレルギー科	全科	その他	不詳	
福岡市	38	31	30	21	15	13	9	8	8	104	7	
東区	15	25	13	10	10	2	3	2	3	24	1	
博多区	1	-	3	-	1	1	1	1	-	14	-	
中央区	12	3	9	8	-	3	1	1	-	29	6	
南区	5	-	3	-	1	-	1	4	-	12	-	
西区	2	-	-	2	-	1	-	-	-	6	-	
城南区	3	2	1	1	1	1	1	-	-	13	-	
早良区	-	1	1	-	2	5	2	-	5	6	-	
糸島市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
福岡・糸島	38	31	30	21	15	13	9	8	8	105	7	

令和6年3月に策定した「福岡県外来医療計画」の構想区域の主な意見

- ・病床や医療機関が減ってきているので、在宅医療を担ってもらう診療所が必要
- ・新規開業は多いが、診療科が偏っているのが課題 皮膚科や美容整形外科等の開業が多い

※スライド21・22を基に、今後患者が増えていく見込みの診療科（入院・外来）は「増加」、減少していく見込みの診療科は「減少」としている

11. 医療従事者数〔常勤医師〕（令和5年度「病床機能報告」）

福岡・糸島区域は件数が多いため、別紙資料2を参照

12. 医療介護資源の状況 (日医総研ワーキングペーパー(2023年4月第6版))

●【地域の概要】

一人当たり医療費(国保):340千円(偏差値43)

一人当たり介護給付費:264千円(偏差値50)

●【医療の現状】

病院数:122、人口10万人当たり7.1(偏差値51)

診療所数:1682、人口10万人当たり98(偏差値59)

総医師数:6,766、人口10万人当たり395(偏差値59)

専門医数

小児科:272、人口10万人当たり15.9(偏差値60)

産婦人科:195、人口10万人当たり11.4(偏差値55)

総合内科:662、人口10万人当たり38.7(偏差値60)

看護師数:20,608、人口10万人当たり1,204(偏差値60)

●【介護施設や在宅ケアの現状】

高齢者施設・住宅定員数:20,214、75歳以上1,000人当たり110(偏差値58)

(うち、介護保険施設定員:10,183、75歳以上1,000人当たり55(偏差値50)

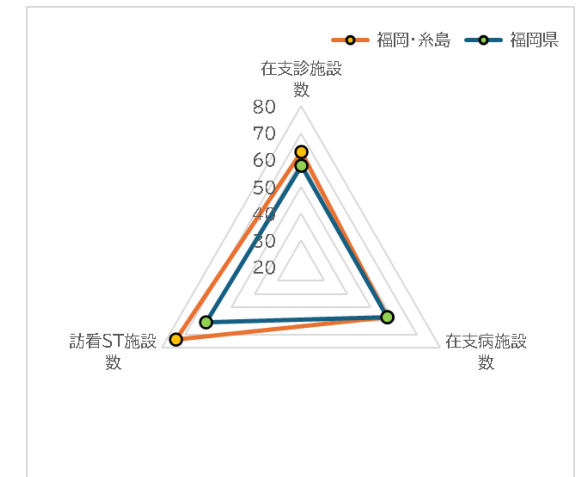
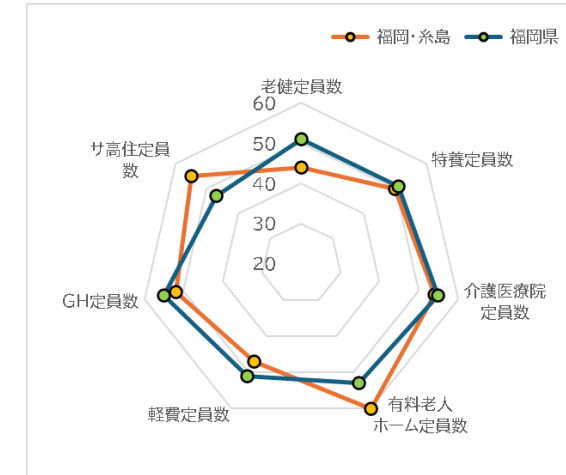
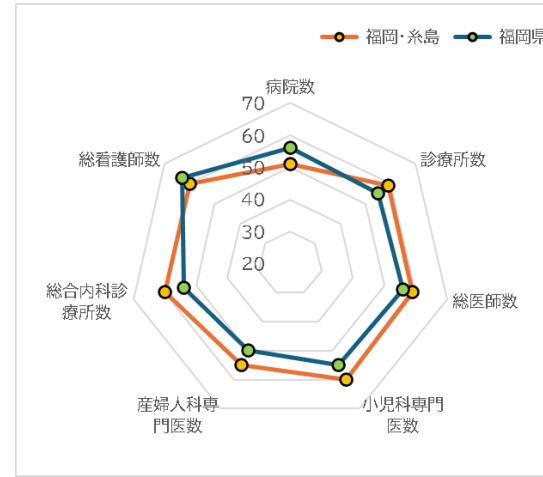
(うち、高齢者住宅定員:10,031、75歳以上1,000人当たり54(偏差値60)

介護職員数:13,038、75歳以上1,000人当たり71(偏差値50)

施設別定員数:老健施設2,923(偏差値44)、特養6067(偏差値50)、介護医療院651(偏差値54)

(75歳以上1,000人当たり)有料23.3(偏差値60)、軽費0.7(偏差値47)、GH12.3(偏差値52)、サ高住18.1(偏差値55)

在宅ケア(施設数):在支診251(偏差値63)、在支病27(偏差値57)、訪看ST253(偏差値74)



12. 医療介護資源の状況 (厚生労働省「医療施設調査」)

●医療施設数(病院、一般診療所H28→R5推移)(在宅療養支援診療所H26→R5推移)(訪問看護STはH29→R7推移)

医療施設数等	病院	一般診療所		在宅療養支援診療所	訪問看護ステーション
福岡県	461 → 453	4,654 → 4,806	866 → 767	493 → 1,086	
福岡・糸島	123 → 123	1,611 → 1,779	244 → 246	151 → 373	
粕屋	26 → 26	174 → 192	29 → 28	24 → 36	
筑紫	27 → 27	293 → 313	45 → 39	35 → 73	

出所:病院、診療所数は厚生労働省「医療施設調査(動態)(平成28年10月1日現在)」、「医療施設調査(静態・動態)(令和5年10月1日現在)」

出所:在宅療養支援診療所数は厚生労働省「医療施設調査(静態・動態)(平成26年、令和5年10月1日現在)」

出所:訪問看護ステーション数は県医療指導課データ

※1 在宅療養支援診療所数は、平成26年4月、令和5年4月現在診療報酬施設基準による

※2 訪問看護ステーションは、平成29年4月1日現在、令和7年7月1日現在の介護保険法に基づく指定数

●市区別医療施設数(病院、一般診療所H28→R5推移)

	病院数		一般診療所数	
	平成28年	令和5年	平成28年	令和5年
福岡市	115 →	115	1,528 →	1,693
東区	22 →	21	209 →	223
博多区	17 →	17	264 →	305
中央区	17 →	16	368 →	440
南区	17 →	18	222 →	228
西区	20 →	21	156 →	179
城南区	9 →	9	105 →	101
早良区	13 →	13	204 →	217
糸島市	8 →	8	83 →	86
福岡・糸島	123 →	123	1,611 →	1,779

●小児科標榜医療機関数(H26→R2推移)

	医療機関数			小児人口10万人対 医療機関数
	病院	診療所		
福岡県	361 → 361	96 → 97	265 → 264	53.4 → 55.9
福岡・糸島	111 → 115	18 → 21	93 → 94	52.1 → 52.6
粕屋	18 → 19	5 → 5	13 → 14	38.3 → 40.0
筑紫	29 → 27	6 → 5	23 → 22	43.0 → 41.0

出所:「医療施設調査」(平成26年、令和2年)

※診療所は、「小児科が主たる診療科」+「小児科単科」。

●分娩取扱医療機関数(H26→R5推移)

医療施設数等	病院	診療所
福岡県	34 → 28	88 → 63
福岡・糸島	11 → 9	24 → 16
粕屋	1 → 1	5 → 5
筑紫	1 → 1	7 → 5

出所:厚生労働省「医療施設調査(静態・動態)(各年10月1日現在)」(平成26年、令和5年)による

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（日医総研ワーキングペーパー（2023年4月第6版））

●看護師数(総数、病院看護師数、診療所看護師数)※令和2年10月

二次医療圏	総看護師数	人口 10万人当たり	病院 看護師数	人口 10万人当たり	診療所 看護師数	人口 10万人当たり
福岡・糸島	20,608	1,204	15,650	915	4,958	290
粕屋	3,095	1,057	2,496	852	599	204
宗像	1,595	972	1,200	731	395	241
筑紫	3,520	801	2,567	584	953	217
朝倉	862	1,054	652	797	210	257
久留米	6,953	1,535	5,552	1,226	1,401	309
八女・筑後	1,831	1,415	1,407	1,087	424	327
有明	3,687	1,742	2,927	1,383	760	359
飯塚	2,903	1,661	2,340	1,340	562	322
直方・鞍手	1,234	1,178	952	909	282	270
田川	1,784	1,512	1,377	1,167	407	345
北九州	16,061	1,500	12,881	1,203	3,179	297
京築	1,912	1,043	1,379	752	533	291
福岡県	66,044	1,286	51,381	1,001	14,663	286
全国	1,164,671	923	918,226	728	246,444	195

出典：厚生労働省「令和2年医療施設静態調査」

・総看護師数の人口10万人当たり人数を見ると、福岡・糸島区域は、県全体と概ね同程度で、全国より多い状況となっている

・勤務場所別で見ると、人口10万人当たり病院看護師は、県全体より少なく、全国より多い状況となっている

・人口10万人当たり診療所看護師は、県全体、全国より多いという状況である

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（日医総研ワーキングペーパー（2023年4月第6版））

●介護サービス従事看護師数（介護施設、訪問看護）（常勤換算）※令和4年5月 常勤換算

二次医療圏	介護サービス従事看護師数	75歳以上 1,000人当たり	看護師数 (施設)	75歳以上 1,000人当たり	看護師数 (訪問)	75歳以上 1,000人当たり
福岡・糸島	2,649	14.4	1,415	7.7	1235	6.7
粕屋	557	16.8	445	13.4	112	3.4
宗像	227	9.5	162	6.8	65	2.7
筑紫	498	9.8	269	5.3	228	4.5
朝倉	151	10.8	114	8.2	37	2.6
久留米	796	11.9	416	6.2	380	5.7
八女・筑後	256	11.7	174	8.0	82	3.8
有明	469	11.5	360	8.9	109	2.7
飯塚	370	12.7	255	8.8	115	3.9
直方・鞍手	307	15.6	194	9.8	114	5.8
田川	394	17.4	220	9.7	175	7.7
北九州	1,883	10.5	1,179	6.6	704	3.9
京築	394	12.9	294	9.6	101	3.3
福岡県	8,952	12.5	5,497	7.7	3455	4.8
全国	188,635	10.1	119,762	6.4	68873	3.7

出典：厚生労働省「介護サービス情報公表システム」（令和4年5月）

・介護サービス従事看護師数の75歳以上1,000人当たり人数を見ると、福岡・糸島区域は、県全体、全国よりも多い状況となっている

・75歳以上1,000人当たり従事者数を勤務場所別で見ると、介護施設は7.7人と県全体と同数、全国よりも多い状況となっている

・訪問看護は6.7人と県全体、全国よりも多い状況となっている

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（日医総研ワーキングペーパー（2023年4月第6版））

●介護サービス従事介護職員数（介護施設等、在宅介護）※令和4年5月 常勤換算

二次医療圏	介護サービス従事 介護職員数	75歳以上 1,000人当たり	介護職員数 (介護施設等)	75歳以上 1,000人当たり	介護職員数 (在宅)	75歳以上 1,000人当たり
福岡・糸島	16,014	87.0	13,038	71.0	2976	16.2
粕屋	2,315	70.0	2,038	62.0	277	8.4
宗像	1,758	74.0	1,559	66.0	199	8.4
筑紫	3,653	72.0	3,131	62.0	523	10.3
朝倉	1282	92.0	1226	88.0	56	4.0
久留米	6,182	93.0	5,517	83.0	665	10.0
八女・筑後	2,199	101.0	1,964	90.0	235	10.8
有明	3,884	96.0	3,376	83.0	508	12.5
飯塚	2,833	97.0	2,361	81.0	472	16.2
直方・鞍手	2,005	102.0	1753	89.0	252	12.8
田川	3,189	141.0	2,600	115.0	588	26.0
北九州	15,195	84.0	12,896	72.0	2299	12.8
京築	2,565	84.0	2,252	73.0	313	10.2
福岡県	63,075	88.0	53,711	75.0	9364	13.1
全国	1,556,622	84.0	1,327,531	71.0	229090	12.3

出典：厚生労働省「介護サービス情報公表システム」（令和4年5月）

・介護サービス従事介護職員数の75歳以上1,000人当たり人数を見ると、福岡・糸島区域は、県全体よりも若干少なく、全国よりも多い状況となっている

・75歳以上1,000人当たり人数を勤務場所別で見ると、介護施設等は71.0人と県全体よりも少なく、全国と同数となっている
在宅については、16.2人と県全体、全国よりも多い状況となっている

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（「衛生行政報告例」）

●就業場所別の看護師数

福岡県	看護師								
	実数	人口10万人 当たり	割合	就業場所別 二次医療圏ごとの就業場所別人数(斜体)は推計値					
				病院	診療所	訪問看護 ステーション	介護保険 施設等	社会福祉 施設	その他
	65,134	1,273.1		47,399	9,078	3,126	3,279	419	1,833
福岡・糸島	20,818	1,202.5	32.0%	15,150	2,901	999	1,048	134	586
粕屋	3,176	1,083.5	4.9%	2,311	443	152	160	20	89
宗像	1,740	1,050.4	2.7%	1,266	243	84	88	11	49
筑紫	3,795	859.9	5.8%	2,762	529	182	191	24	107
朝倉	871	1,079.4	1.3%	634	121	42	44	6	25
久留米	6,885	1,532.0	10.6%	5,010	960	330	347	44	194
八女・筑後	1,794	1,401.8	2.8%	1,306	250	86	90	12	50
有明	3,459	1,684.0	5.3%	2,517	482	166	174	22	97
飯塚	2,521	1,470.8	3.9%	1,835	351	121	127	16	71
直方・鞍手	1,066	1,037.8	1.6%	776	149	51	54	7	30
田川	1,378	1,207.3	2.1%	1,003	192	66	69	9	39
北九州	15,962	1,514.2	24.5%	11,616	2,225	766	804	103	449
京築	1,669	923.2	2.6%	1,215	233	80	84	11	47

・看護師数の人口10万人当たり人数を見ると、福岡・糸島区域は、県平均よりも若干少ない状況となっている

・福岡・糸島区域について、就業場所別に見ると、病院が最も多く、次いで診療所、介護保険施設等となっており、病院と診療所で87%を占めている

※二次医療圏ごとの就業場所別の人数(斜体)は、就業場所別の県全体の人数に看護師実数の二次医療圏ごとの割合を掛けて推計したもの

厚生労働省「衛生行政報告例」(2022(令和4)年12月31日現在)

福岡県「人口移動調査」(2022(令和4)年10月1日現在)

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（「衛生行政報告例」）

●就業場所別の准看護師数

福岡県	准看護師								
	実数	人口10万人 当たり	割合	就業場所別 二次医療圏ごとの就業場所別人数(斜体)は推計値					
				病院	診療所	訪問看護 ステーション	介護保険 施設等	社会福祉 施設	その他
	13,995	273.6		5,542	5,445	357	2,211	288	152
福岡・糸島	2,893	167.1	20.7%	1,146	1,126	74	457	60	31
粕屋	662	225.8	4.7%	262	258	17	105	14	7
宗像	337	203.4	2.4%	133	131	9	53	7	4
筑紫	757	171.5	5.4%	300	295	19	120	16	8
朝倉	297	368.1	2.1%	118	116	8	47	6	3
久留米	1,451	322.9	10.4%	575	565	37	229	30	16
八女・筑後	542	423.5	3.9%	215	211	14	86	11	6
有明	1,198	583.2	8.6%	474	466	31	189	25	13
飯塚	786	458.6	5.6%	311	306	20	124	16	9
直方・鞍手	534	519.9	3.8%	211	208	14	84	11	6
田川	807	707.0	5.8%	320	314	21	127	17	9
北九州	3,014	285.9	21.5%	1,194	1,173	77	476	62	33
京築	717	396.6	5.1%	284	279	18	113	15	8

・准看護師数の人口10万人当たり人数を見ると、福岡・糸島区域は、県平均よりもかなり少ない状況となっている

・福岡・糸島区域について、就業場所別に見ると、病院と診療所が概ね同数で、次いで介護保険施設等となっており、病院と診療所で79%を占めている

※二次医療圏ごとの就業場所別の人数(斜体)は、就業場所別の県全体の人数に看護師実数の二次医療圏ごとの割合を掛けて推計したもの

厚生労働省「衛生行政報告例」(2022(令和4)年12月31日現在)

福岡県「人口移動調査」(2022(令和4)年10月1日現在)

14. 在宅医療の状況

福岡県在宅療養支援診療所等調査(高齢者地域包括ケア推進課)

【調査対象】

九州厚生局に在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料の届出を行っている施設

【調査時期】

毎年5月～7月頃

【回収状況】

令和5年度回答率94.9%

令和7年度回答率97.0%

【項目の説明】

訪問診療:調査対象月1ヶ月間の訪問診療患者数(医療機関所在地ベース)の実数

小児:調査対象月1ヶ月間の19歳以下の訪問診療患者数(医療機関所在地ベース)の実数

在宅看取り:調査前年度1年間の在宅看取り(施設看取り含む)患者数(医療機関所在地ベース)の実数

14. 在宅医療の状況 (高齢者地域包括ケア推進課「福岡県在宅療養支援診療所等調査」)

●在宅医療機関数

	R5年度				R7年度				R5年度→R7年度の推移				今後の意向 ※R5年度調査		
	医療機関数	患者数			医療機関数	患者数			医療機関数の増減	患者数			現在より積極的に取り組みたい	現状維持	今後は減らす、または在宅医療から撤退する予定
		訪問診療	小児	在宅看取り		訪問診療	小児	在宅看取り		訪問診療	小児	在宅看取り			
福岡・糸島	401	17,824	210	2,456	423	21,874	333	2,790	22	4,050	123	334	101	193	20
粕屋	50	1,154	0	249	50	1,167	12	192	0	13	12	-57	12	26	4
宗像	32	1,421	27	272	32	1,531	46	228	0	110	19	-44	6	20	1
筑紫	69	2,719	7	408	73	3,675	16	623	4	956	9	215	23	32	5
朝倉	37	571	7	79	36	728	12	97	-1	157	5	18	13	22	2
久留米	160	3,627	48	924	158	4,311	81	923	-2	684	33	-1	31	89	8
八女・筑後	45	779	2	318	45	849	1	243	0	70	-1	-75	8	22	4
有明	73	1,595	1	322	72	1,661	5	280	-1	66	4	-42	17	41	2
飯塚	40	1,715	13	485	43	1,959	23	423	3	244	10	-62	10	22	4
直方・鞍手	35	1,355	0	190	34	1,308	1	249	-1	-47	1	59	6	18	2
田川	28	931	0	74	33	1,296	2	72	5	365	2	-2	6	16	2
北九州	323	9,453	20	1,888	329	12,153	122	2,110	6	2,700	102	222	61	165	25
京築	36	810	4	336	35	1,087	9	314	-1	277	5	-22	2	28	3
総数	1,329	43,954	339	8,001	1,363	53,599	663	8,544	34	9,645	324	543	296	694	82

・福岡・糸島区域の令和5年度調査による在宅医療への今後の意向は、「現在より積極的に取り組みたい」が101件、「現状維持」が193件、「今後は減らす、または在宅医療から撤退する予定」が20件という結果で、令和5年度から7年度の推移を見ると、医療機関は22件増加し、訪問診療患者数、小児患者数、在宅看取り患者数はいずれも増加している

14. 在宅医療の状況 (高齢者地域包括ケア推進課「福岡県在宅療養支援診療所等調査」)

●在宅医療に従事する医師数(R7年度)

	医師数				医師の年齢別											
	常勤	非常勤 (常勤換算)	常勤+常勤 換算数		29歳以下		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70歳以上	
福岡・糸島	849	531	89.1	620.1	7	(0.8%)	140	(16.5%)	203	(23.9%)	195	(23.0%)	175	(20.6%)	129	(15.2%)
粕屋	74	60	9.6	69.6	0	(0.0%)	3	(4.1%)	10	(13.5%)	30	(40.5%)	24	(32.4%)	7	(9.5%)
宗像	68	40	6.4	46.4	1	(1.5%)	5	(7.4%)	16	(23.5%)	26	(38.2%)	16	(23.5%)	4	(5.9%)
筑紫	178	100	18.5	118.5	5	(2.8%)	24	(13.5%)	52	(29.2%)	44	(24.7%)	33	(18.5%)	20	(11.2%)
朝倉	80	50	5.6	55.6	2	(2.5%)	13	(16.3%)	22	(27.5%)	11	(13.8%)	16	(20.0%)	16	(20.0%)
久留米	234	188	15.6	203.6	1	(0.4%)	19	(8.1%)	58	(24.8%)	55	(23.5%)	56	(23.9%)	45	(19.2%)
八女・筑後	81	63	13.0	76.0	1	(1.2%)	9	(11.1%)	18	(22.2%)	16	(19.8%)	24	(29.6%)	13	(16.0%)
有明	124	95	9.1	104.1	1	(0.8%)	10	(8.1%)	23	(18.5%)	19	(15.3%)	34	(27.4%)	37	(29.8%)
飯塚	101	56	10.0	66.0	1	(1.0%)	37	(36.6%)	18	(17.8%)	11	(10.9%)	17	(16.8%)	17	(16.8%)
直方・鞍手	46	37	2.7	39.7	0	(0.0%)	7	(15.2%)	9	(19.6%)	9	(19.6%)	12	(26.1%)	9	(19.6%)
田川	50	36	7.6	43.6	0	(0.0%)	4	(8.0%)	7	(14.0%)	16	(32.0%)	11	(22.0%)	12	(24.0%)
北九州	551	362	50.7	412.7	8	(1.5%)	78	(14.2%)	103	(18.7%)	127	(23.0%)	131	(23.8%)	104	(18.9%)
京築	81	48	6.7	54.7	0	(0.0%)	16	(19.8%)	18	(22.2%)	13	(16.0%)	17	(21.0%)	17	(21.0%)
総数	2,517	1,666	244.6	1,910.6	27	(1.1%)	365	(14.5%)	557	(22.1%)	572	(22.7%)	566	(22.5%)	430	(17.1%)

・在宅医療を行う医師の年齢別割合を見ると、福岡・糸島区域では、「40~49歳」が23.9%、次いで「50~59歳」が23.0%、「60~69歳」が20.6%となっており、概ね県全体と同じような割合となっている

14. 在宅医療の状況 (高齢者地域包括ケア推進課「福岡県在宅療養支援診療所等調査」)

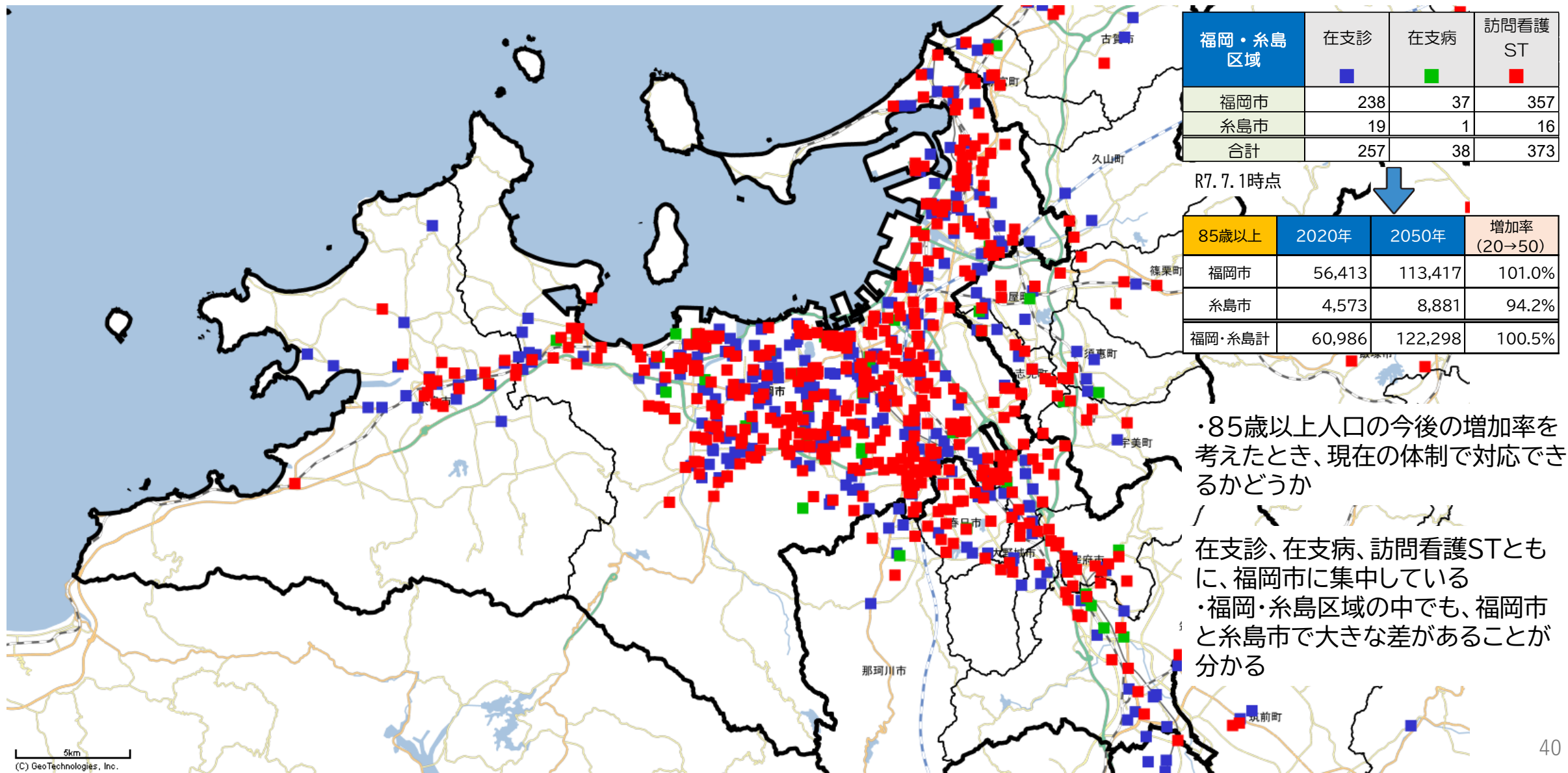
●在宅医療機関数(市区別)

	R5年度				R7年度				R5年度→R7年度の推移				今後の意向 ※R5年度調査		
	医療機関数	患者数			医療機関数	患者数			医療機関数の増減	患者数			現在より積極的に取り組みたい	現状維持	今後は減らす、または在宅医療から撤退する予定
		訪問診療	小児	在宅看取り		訪問診療	小児	在宅看取り		訪問診療	小児	在宅看取り			
福岡市	370	17,245	209	2,367	391	21,248	331	2,765	21	4,003	122	398	95	179	18
東区	68	4,119	44	415	72	5,036	104	479	4	917	60	64	13	44	4
博多区	41	3,347	52	262	41	3,707	50	422	0	360	-2	160	15	14	1
中央区	56	1,851	3	370	59	3,004	3	544	3	1,153	0	174	16	24	3
南区	65	3,104	9	405	69	3,341	11	388	4	237	2	-17	17	33	4
西区	41	1,279	52	179	43	1,982	57	237	2	703	5	58	11	19	1
城南区	32	1,002	36	305	35	1,368	87	298	3	366	51	-7	9	13	2
早良区	67	2,543	13	431	72	2,810	19	397	5	267	6	-34	14	32	3
糸島市	31	579	1	89	32	626	2	25	1	47	1	-64	6	14	2
福岡・糸島	401	17,824	210	2,456	423	21,874	333	2,790	22	4,050	123	334	101	193	20

●在宅医療に従事する医師数(R7年度)(市区別)

	医師数				医師の年齢別							
	常勤	非常勤 (常勤換算)	常勤+非常勤 換算数		29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上		
福岡市	818	505	86.8	591.8	7 (0.9%)	139 (17.0%)	194 (23.7%)	186 (22.7%)	171 (20.9%)	121 (14.8%)		
東区	165	98	15.7	113.7	2 (1.2%)	28 (17.0%)	39 (23.6%)	41 (24.8%)	34 (20.6%)	21 (12.7%)		
博多区	97	53	16.7	69.7	4 (4.1%)	22 (22.7%)	18 (18.6%)	23 (23.7%)	20 (20.6%)	10 (10.3%)		
中央区	120	68	10.8	78.8	1 (0.8%)	15 (12.5%)	42 (35.0%)	24 (20.0%)	20 (16.7%)	18 (15.0%)		
南区	144	99	16.9	115.9	0 (0.0%)	24 (16.7%)	34 (23.6%)	29 (20.1%)	34 (23.6%)	23 (16.0%)		
西区	90	62	7.1	69.1	0 (0.0%)	17 (18.9%)	20 (22.2%)	22 (24.4%)	13 (14.4%)	18 (20.0%)		
城南区	76	47	8.1	55.1	0 (0.0%)	12 (15.8%)	17 (22.4%)	19 (25.0%)	16 (21.1%)	12 (15.8%)		
早良区	126	78	11.5	89.5	0 (0.0%)	21 (16.7%)	24 (19.0%)	28 (22.2%)	34 (27.0%)	19 (15.1%)		
糸島市	31	26	2.3	28.3	0 (0.0%)	1 (3.2%)	9 (29.0%)	9 (29.0%)	4 (12.9%)	8 (25.8%)		
福岡・糸島	849	531	89.1	620.1	7 (0.8%)	140 (16.5%)	203 (23.9%)	195 (23.0%)	175 (20.6%)	129 (15.2%)		

14. 在宅医療の状況 (在支診、在支病、訪問看護STの位置)



5km
(C) GeoTechnologies, Inc.

15. 看護職員の状況

看護職員確保に係る実態調査(医療指導課医師・看護職員確保対策室)

【調査対象】

(1)施設調査:6,451施設

病院(451)、診療所(4,205)、訪問看護ステーション(984)、介護老人保健施設(173)、介護老人福祉施設(439)、介護医療院(55)、障がい児者施設(施設入所・療養介護)(144)、その他(無回答含む)(48)

(2)看護職員調査:10,208人

上記施設に勤務する看護職員

【調査方法】

対象施設に郵送により依頼し、ふくおか電子申請サービスにて回答

【調査時期】

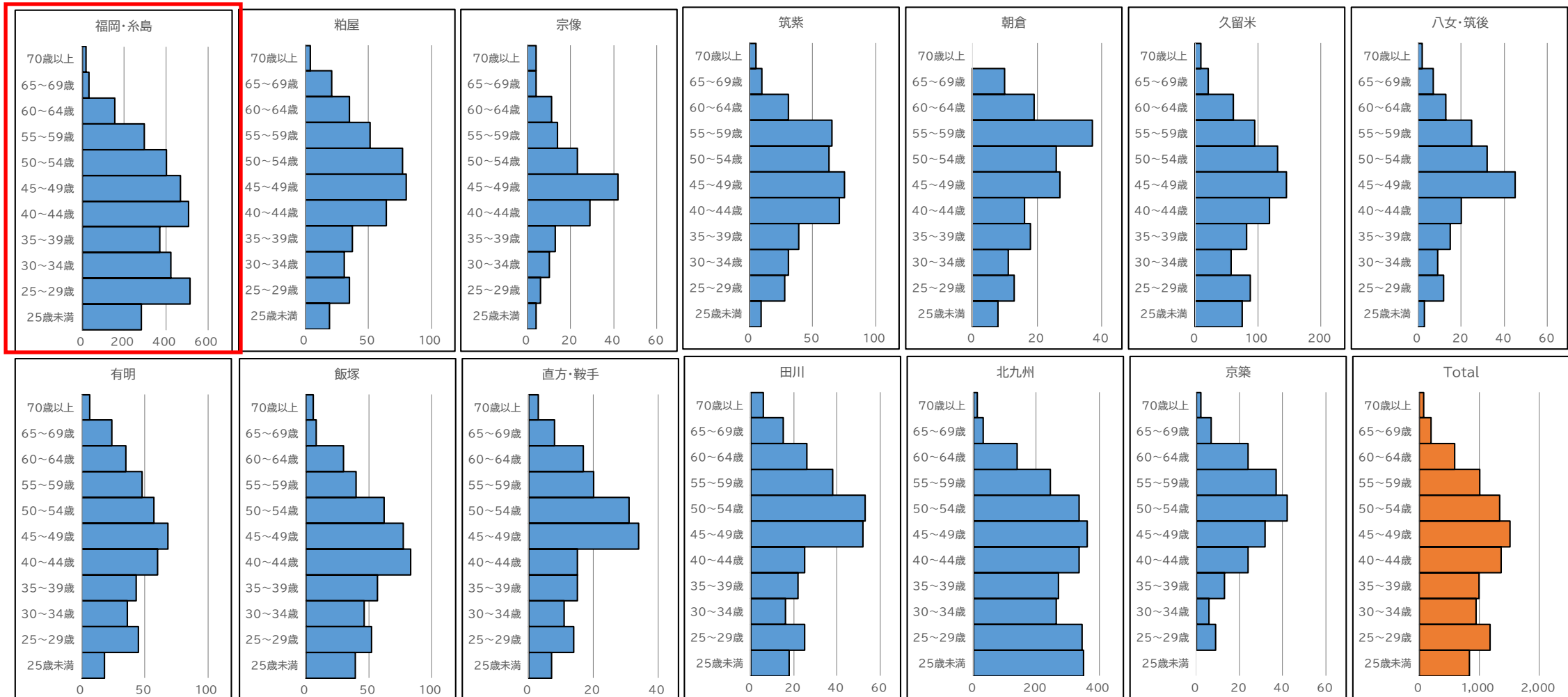
令和6年11月18日(月)～12月13日(金)

【回収状況】

施設2,201件(回収率34.1%)／看護職員回収10,208人

15. 看護職員の状況 (医療指導課医師・看護職員確保対策室「看護職員確保に係る実態調査」)

●二次医療圏・年齢階級別看護師数



- ・福岡・糸島区域の年齢構成ピラミッドを見ると、30代前半以下の層の割合は北九州地区に次いで高い状況にある
- ・看護師確保の困難さが言及されているなか、このままの年齢構成で10~20年後を考えた際、医療提供体制を維持できるか

16. 二次医療圏の人口及び流入流出患者割合・比較表 (厚生労働省「患者調査-二次医療圏編」)

二次医療圏	人口				推計流入患者割合			推計流出患者割合		
	H28.8.1時点	R5.8.1時点	差	(増減割合)	H26調査	R5調査	差	H26調査	R5調査	差
福岡・糸島	1,648,241	1,740,857	92,616	(5.32%)	19.1	21.8	2.7	13.2	12.4	▲ 0.8
粕屋	285,000	292,622	7,622	(2.60%)	44.9	42.1	▲ 2.8	39.1	41.1	2.0
宗像	156,744	165,602	8,858	(5.35%)	35.3	33.5	▲ 1.8	34.7	40.9	6.2
筑紫	434,568	440,919	6,351	(1.44%)	33.5	30.6	▲ 2.9	37.2	40.6	3.4
朝倉	83,209	80,348	▲ 2,861	(▲3.56%)	21.3	22.5	1.2	42.1	30.0	▲ 12.1
久留米	455,840	447,316	▲ 8,524	(▲1.91%)	34.5	31.8	▲ 2.7	23.9	22.8	▲ 1.1
八女・筑後	132,283	127,106	▲ 5,177	(▲4.07%)	25.0	27.3	2.3	29.4	34.9	5.5
有明	220,974	202,644	▲ 18,330	(▲9.05%)	20.0	18.4	▲ 1.6	21.8	18.9	▲ 2.9
飯塚	180,023	170,014	▲ 10,009	(▲5.89%)	21.9	23.5	1.6	26.8	25.9	▲ 0.9
直方・鞍手	108,047	101,892	▲ 6,155	(▲6.04%)	25.0	25.8	0.8	36.5	40.4	3.9
田川	124,830	112,634	▲ 12,196	(▲10.83%)	21.1	27.3	6.2	22.4	28.4	6.0
北九州	1,091,345	1,046,238	▲ 45,107	(▲4.31%)	8.2	9.0	0.8	7.7	7.3	▲ 0.4
京築	184,053	179,800	▲ 4,253	(▲2.37%)	20.3	20.2	▲ 0.1	33.2	28.4	▲ 4.8
福岡県	5,105,157	5,107,992	2,835	(0.06%)	21.5	22.0	0.5	20.4	20.5	0.1

福岡・糸島区域は、H28年からR5年の7年間で人口が92,616人(5.3%)増加している

この7年間で推計流入患者割合は2.7ポイント増加、推計流出患者割合は0.8ポイント減少するなど、他圏域からの流入患者数が増えてきている状況が見られる

※ 人口:福岡県人口移動調査「福岡県の人口と世帯(推計)」(平成28年8月1日現在、令和5年8月1日現在)

※ 推計流入患者割合、推計流出患者割合:厚生労働省「患者調査」(平成26年10月、令和5年10月)

病院の推計入院患者数の圏内への流入患者割合・圏外への流出患者割合、二次医療圏内・二次医療圏外が不詳の者を推計患者数から除いて算出

17. 二次救急及び急患センターの位置(隣接地域含む)

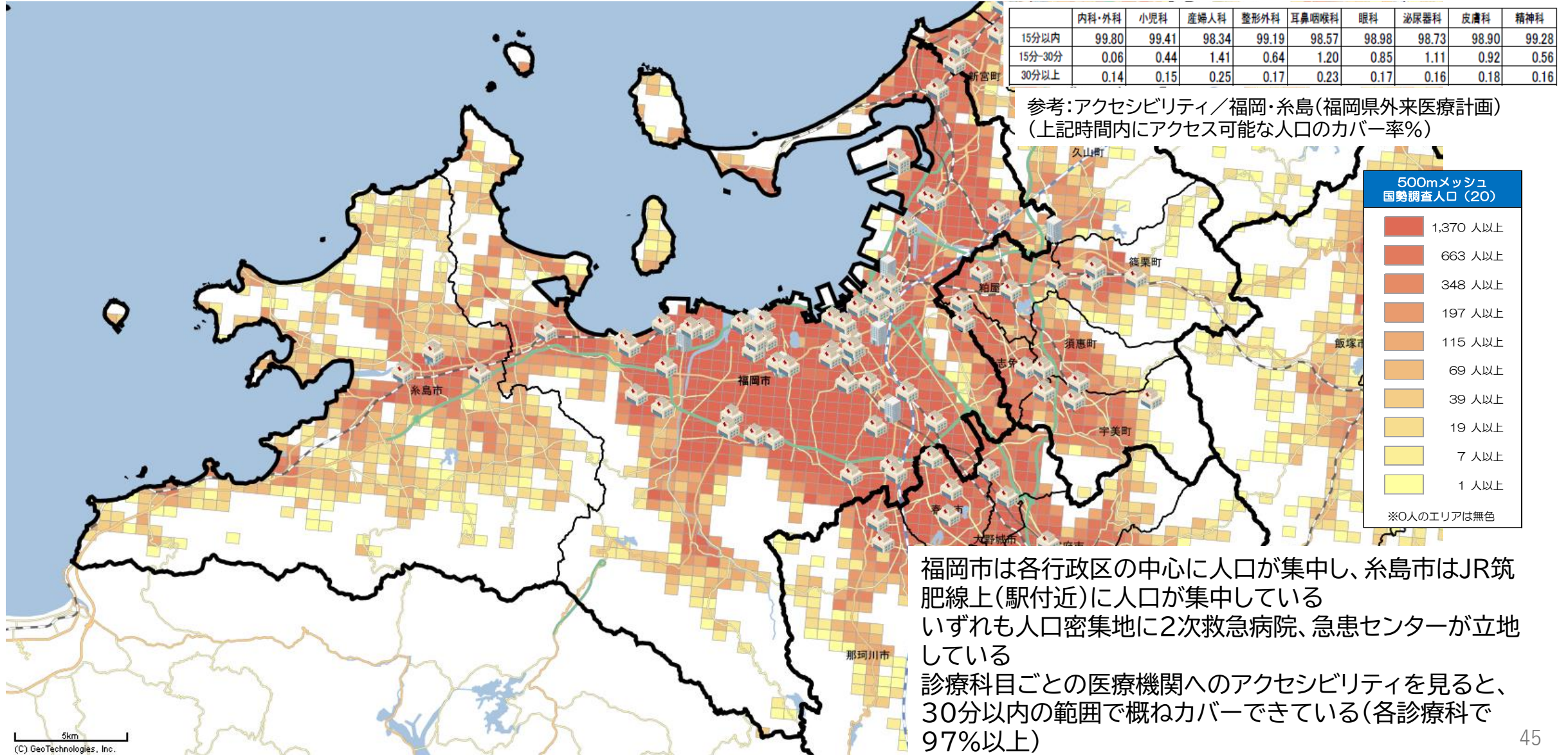


・福岡・糸島医療圏は、粕屋医療圏、筑紫医療圏と接している

・医療の状況を見ると、福岡・糸島医療圏内には、53の二次救急と、福岡市内各行政区単位で6、糸島市内に1つの急患センターがある

・隣接する粕屋医療圏には23の二次救急が、筑紫医療圏には10の二次救急がある

18. 人口メッシュ(500m) (2020年(令和2年)「国勢調査」)



19. 救急搬送の状況① (令和5年「福岡県消防年報」)

	搬送人員 (人)	年齢区分					居住地		
		新生児(人、割合)	乳幼児(人、割合)	少年(人、割合)	成年(人、割合)	高齢者(人、割合)	管内(人、割合)	管外(人、割合)	その他(人、割合)
福岡市消防局	80,152	202 (0.3%)	3,856 (4.8%)	2,801 (3.5%)	29,892 (37.3%)	43,401 (54.1%)	75,654 (94.4%)	3,761 (4.7%)	737 (0.9%)
糸島市消防本部	4,513	16 (0.4%)	205 (4.5%)	176 (3.9%)	1,181 (26.2%)	2,935 (65.0%)	4,024 (89.2%)	487 (10.8%)	2 (0.0%)
福岡・糸島区域計	84,665	218 (0.3%)	4,061 (4.8%)	2,977 (3.5%)	31,073 (36.7%)	46,336 (54.7%)	79,678 (94.1%)	4,248 (5.0%)	739 (0.9%)
福岡県	254,728	687 (0.3%)	10,824 (4.2%)	8,654 (3.4%)	75,536 (29.7%)	159,027 (62.4%)	235,856 (92.6%)	17,854 (7.0%)	1,018 (0.4%)

	初診医診断						軽傷に占める
	死亡(人、割合)	重篤(人、割合)	重症(人、割合)	中等症(人、割合)	軽症(人、割合)	その他(人、割合)	高齢者数(人、割合)
福岡市消防局	33 (0.0%)	0 (0.0%)	2,688 (3.4%)	38,827 (48.4%)	38,604 (48.2%)	0 (0.0%)	16,257 (42.1%)
糸島市消防本部	4 (0.1%)	0 (0.0%)	362 (8.0%)	2,604 (57.7%)	1,543 (34.2%)	0 (0.0%)	763 (49.4%)
福岡・糸島区域計	37 (0.0%)	0 (0.0%)	3,050 (3.6%)	41,431 (48.9%)	40,147 (47.4%)	0 (0.0%)	17,020 (42.4%)
福岡県	1,573 (0.6%)	8 (0.0%)	13,146 (5.2%)	138,915 (54.5%)	100,911 (39.6%)	175 (0.1%)	48,147 (47.7%)

- ・搬送人員を年齢区分別に見ると、福岡・糸島区域、県ともに高齢者の割合が高い
→ 福岡・糸島54.7%、県62.4%
- ・症状別では、福岡・糸島区域は、県に比べて中等症より軽症の割合が高い
→「軽症」福岡・糸島47.4%、県39.6%
- ・「軽傷に占める高齢者の割合」は、県に比べて低くなっている
→福岡・糸島42.4%、県47.7%

19. 救急搬送の状況② (令和5年「福岡県消防年報」)

	搬送人員 (人)	うち 高齢者 (人)	高齢者の発生場所								
			住宅 (人、割合)	公衆出入の場所(人、割合)			仕事場 (人、割合)	道路 (人、割合)	その他 (人、割合)		
				うち病院・病床数 20以上の医療機関 (人、割合)	うち病床数19以下 の診療所、医院 (人、割合)	うち老人ホーム:老 人ホーム、老人保健 施設等の老人の収 容施設(人、割合)					
福岡市消防局	80,152	43,401	26,352 (60.7%)	13,233 (30.5%)	3,005 (6.9%)	1,005 (2.3%)	7,042 (16.2%)	357 (0.8%)	3,314 (7.6%)	145 (0.3%)	
糸島市消防本部	4,513	2,935	1,745 (59.5%)	425 (14.5%)	158 (5.4%)	257 (8.8%)	410 (14.0%)	23 (0.8%)	178 (6.1%)	41 (1.4%)	
福岡・糸島区域計	84,665	46,336	28,097 (60.6%)	13,658 (29.5%)	3,163 (6.8%)	1,262 (2.7%)	7,452 (16.1%)	380 (0.8%)	3,492 (7.5%)	186 (0.4%)	
福岡県	254,728	159,027	98,559 (62.0%)	48,121 (30.3%)	11,316 (7.1%)	4,613 (2.9%)	25,245 (15.9%)	1,237 (0.8%)	10,086 (6.3%)	1,024 (0.6%)	

- ・高齢者の救急搬送件数を救急要請の発生場所別に見ると、県全体、福岡・糸島区域ともに、「住宅」が最も割合が高い
→福岡・糸島60.6%、県62.0%
- ・次が「老人ホーム、老人保健施設等の老人の収容施設」である

19. 救急搬送の状況③ (令和5年「福岡県消防年報」)

	搬送人員 (人)	収容平均所要時間 (分)	搬送決定までの連絡回数					搬送先	
			1回(人、割合)	2回(人、割合)	3回(人、割合)	4回以上(人、割合)	うち高齢者(人、割合)	管内(人、割合)	管外(人、割合)
福岡市消防局	80,152	37.85	57,887 (72.2%)	11,704 (14.6%)	5,055 (6.3%)	5,506 (6.9%)	3,063 (55.6%)	74,237 (92.6%)	5,915 (7.4%)
糸島市消防本部	4,513	43.35	2,860 (63.4%)	608 (13.5%)	364 (8.1%)	681 (15.1%)	469 (68.9%)	1,507 (33.4%)	3,006 (66.6%)
福岡・糸島区域計	84,665	38.15	60,747 (71.7%)	12,312 (14.5%)	5,419 (6.4%)	6,187 (7.3%)	3,532 (57.1%)	75,744 (89.5%)	8,921 (10.5%)
福岡県	246,430	37.91	196,547 (79.8%)	31,515 (12.8%)	12,679 (5.1%)	13,987 (5.7%)	9,051 (64.7%)	201,365 (81.7%)	53,363 (21.7%)

【福岡・糸島区域各消防本部の主な搬送先】

(福岡市消防局)

搬送先機関名	所在市町村	搬送人員 (人)	総計に占める割合	うち軽症(%)			うち中等症(%)			うち重症(%)		
				うち軽症(%)	うち中等症(%)	うち重症(%)	うち軽症(%)	うち中等症(%)	うち重症(%)	うち軽症(%)	うち中等症(%)	うち重症(%)
1位 福岡赤十字病院	福岡市	6,574	8.2%	55.6%	41.8%	2.6%						
2位 福岡記念病院	福岡市	6,163	7.7%	45.5%	52.1%	2.3%						
3位 福岡和白病院	福岡市	5,078	6.3%	53.2%	43.4%	3.2%						
4位 九州中央病院	福岡市	4,812	6.0%	39.4%	57.9%	2.7%						
5位 九州医療センター	福岡市	4,484	5.6%	38.6%	58.3%	3.1%						
1位～5位の合計		27,111	33.8%	47.2%	50.0%	2.7%						
総計		80,152	100.0%	48.2%	48.4%	3.4%						

(糸島市消防本部)

搬送先機関名	所在市町村	搬送人員 (人)	総計に占める割合	うち軽症(%)			うち中等症(%)			うち重症(%)		
				うち軽症(%)	うち中等症(%)	うち重症(%)	うち軽症(%)	うち中等症(%)	うち重症(%)	うち軽症(%)	うち中等症(%)	うち重症(%)
1位 白十字病院	福岡市	738	16.4%	35.8%	56.8%	7.5%						
2位 九州医療センター	福岡市	708	15.7%	20.2%	71.8%	8.1%						
3位 糸島市急患センター	糸島市	425	9.4%	65.2%	28.5%	6.4%						
4位 医師会病院	糸島市	418	9.3%	26.8%	64.8%	8.4%						
5位 井上病院	糸島市	405	9.0%	39.0%	53.6%	6.7%						
1位～5位の合計		2,694	59.7%	35.4%	57.0%	7.5%						
総計		4,513	100.0%	34.2%	57.7%	8.0%						

・収容平均所要時間は、県全体が37.9分で、福岡市消防局37.9分、糸島市消防本部が43.4分である

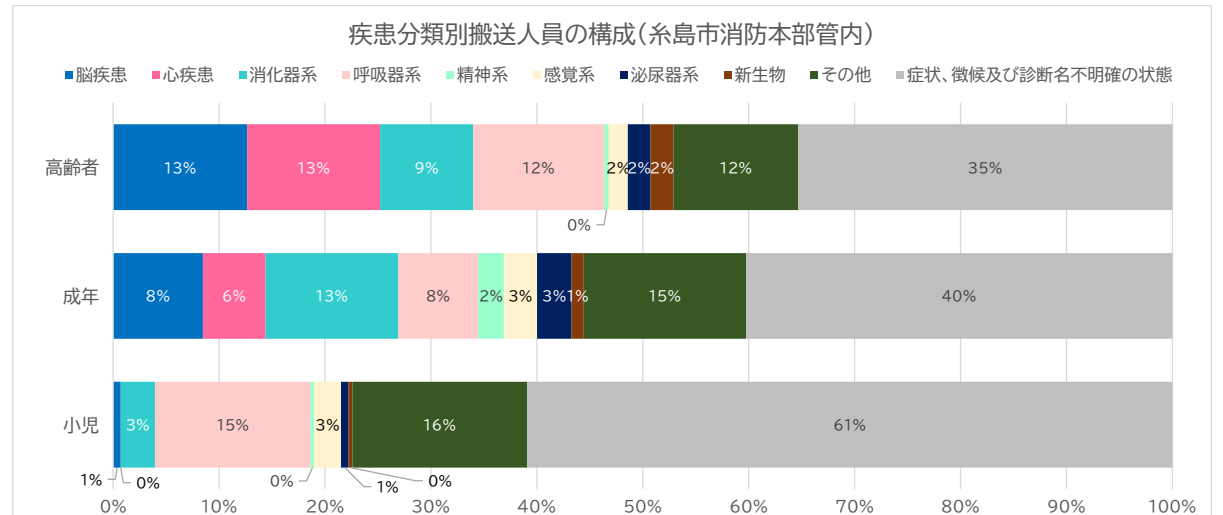
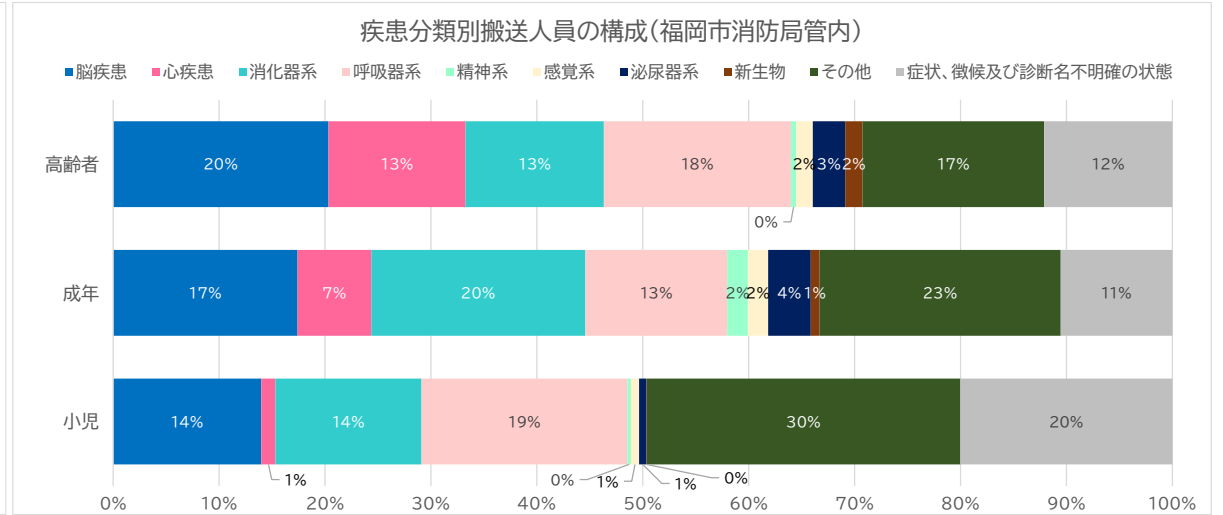
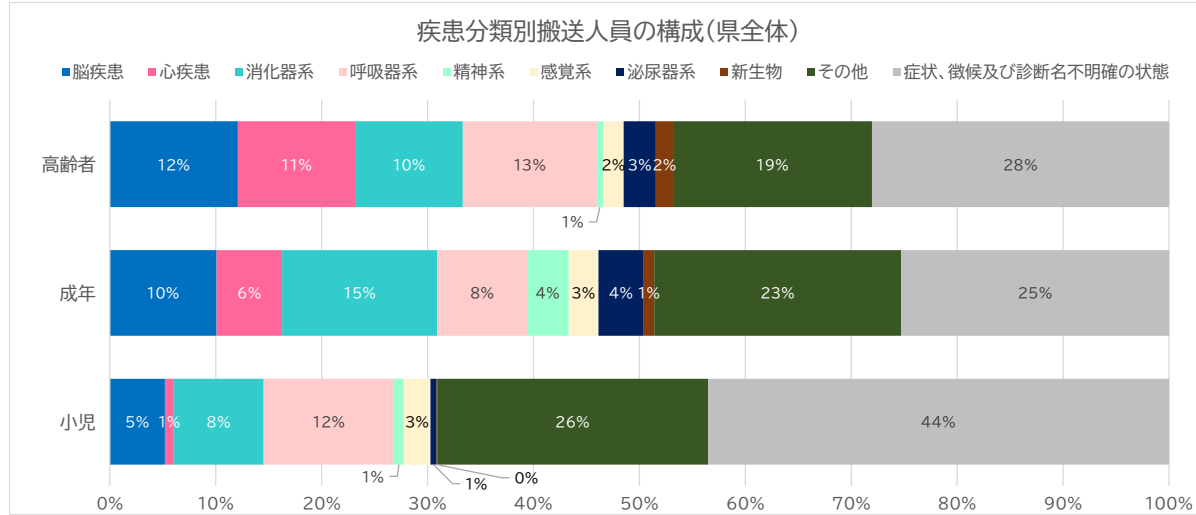
※収容平均所要時間とは、救急事故の覚知から医療機関に収容するまでに要した時間

・搬送決定までの連絡回数は、1回が県79.8%、福岡・糸島区域が71.7%で、1回までに決まる割合は、糸島市消防局で63.4%と低くなっている。ただし、4回以上かかる人数のうち高齢者の割合は、県よりも福岡・糸島区域が低い

・福岡・糸島区域各消防本部の主な搬送先を見ると、福岡市消防局は搬送先が分散しているが、上位5位までは全て域内の搬送先となっている。糸島市消防本部は、域内の「白十字病院(福岡市西区)」、「九州医療センター(福岡市中央区)」に3割が搬送されている

19. 救急搬送の状況④ (令和5年「福岡県消防年報」)

● 疾患分類別搬送人員の構成



19. 救急搬送の状況⑤ (令和5年「福岡県消防年報」)

● 小児(新生児、乳幼児、少年の計)に係る福岡・糸島区域内の各消防本部の搬送状況

*搬送人員が10人以上の医療機関のうち、上位3位を集計

福岡市消防局

救急患者:6,859人(うち 搬送先 管内6,073人(88.5%)、管外786人(11.5%))

【管内】

病院名	搬送人員	総計に占める割合
1位 福岡市立急患診療センター	1,609人	26.5%
2位 福岡市立こども病院	958人	15.8%
3位 福岡大学病院	563人	9.3%
1~3位の合計	3,130人	51.5%
管内総計	6,073人	100.0%

【管外】

病院名	所在市町村	搬送人員	総計に占める割合
1位 福岡徳洲会病院	春日市	637人	81.0%
2位 国立福岡東医療センター	古賀市	33人	4.2%
3位 福岡青洲会病院	粕屋町	20人	2.5%
1~3位の合計		690人	87.8%
管外総計		786人	100.0%

【参考】福岡市消防局

搬送決定までの連絡回数	搬送人員 (割合)
1回	5,196人 (75.8%)
2回	1,016人 (14.8%)
3回	384人 (5.6%)
4回以上	263人 (3.8%)

収容平均所要時間 37.76分

糸島市消防本部

救急患者:397人(うち 搬送先 管内159人(40.1%)、管外238人(59.9%))

【管内】

病院名	搬送人員	総計に占める割合
1位 糸島市急患センター	82人	51.6%
2位 山下小児科	25人	15.7%
3位 井上病院	20人	12.6%
1~3位の合計	127人	79.9%
管内総計	159人	100.0%

【管外】

病院名	所在市町村	搬送人員	総計に占める割合
1位 九州医療センター	福岡市	48人	20.2%
2位 福岡市立こども病院	福岡市	43人	18.1%
3位 福岡大学病院	福岡市	43人	18.1%
1~3位の合計		134人	56.3%
管外総計		238人	100.0%

【参考】糸島市消防本部

搬送決定までの連絡回数	搬送人員 (割合)
1回	268人 (67.5%)
2回	45人 (11.3%)
3回	37人 (9.3%)
4回以上	47人 (11.8%)

収容平均所要時間 40.56分

● 小児に係る福岡・糸島区域内の医療機関への搬送患者の状況

病院名	搬送患者数	1位						2位						3位					
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合			
1位 福岡市立急患診療センター	1,763人	福岡市消防局	92.1%	粕屋南部消防本部	6.6%	粕屋北部消防本部	0.6%												
2位 福岡市立こども病院	1,489人	福岡市消防局	64.7%	粕屋南部消防本部	17.1%	粕屋北部消防本部	6.1%												
3位 福岡大学病院	647人	福岡市消防局	88.6%	糸島市消防本部	6.6%	春日・大野城・那珂川消防組合消防本部	2.3%												

【参考】福岡県平均

搬送決定までの連絡回数	搬送人員 (割合)
1回	16,559人 (82.1%)
2回	2,254人 (11.2%)
3回	765人 (3.8%)
4回以上	587人 (2.9%)

収容平均所要時間 37.55分

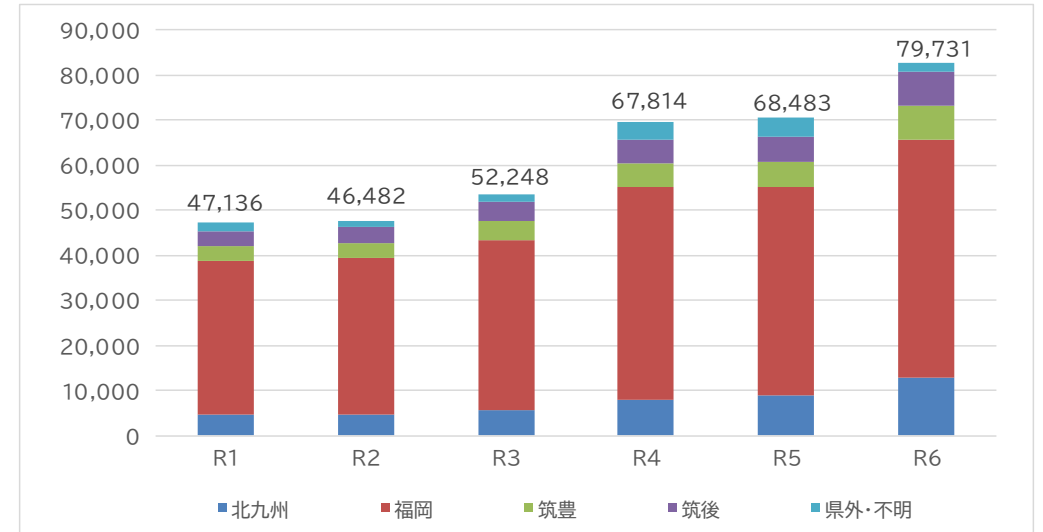
20. 救急医療電話相談利用件数

●福岡県救急電話相談事業(# 7119)市別利用件数

地域別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	増加率 (R1→R6)
北九州	4,716	4,473	5,728	7,984	8,731	12,650	168.2%
福岡	33,951	35,026	37,704	47,051	46,369	53,038	56.2%
筑豊	3,341	2,292	2,739	3,688	3,588	4,413	32.1%
筑後	3,354	3,315	4,134	5,334	5,670	7,526	124.4%
県外・不明	1,774	1,376	1,943	3,757	4,125	2,104	18.6%
福岡県計	47,136	46,482	52,248	67,814	68,483	79,731	69.2%

福岡県のR6年度の「#7119」の利用件数は、前年度(R5年度)から1万1,248件増加し、過去最多の7万9,731件となった

福岡地域のR6年度の「#7119」の利用件数は、前年度(R5年度)から6,669件増加し、過去最多の5万3,038件となった

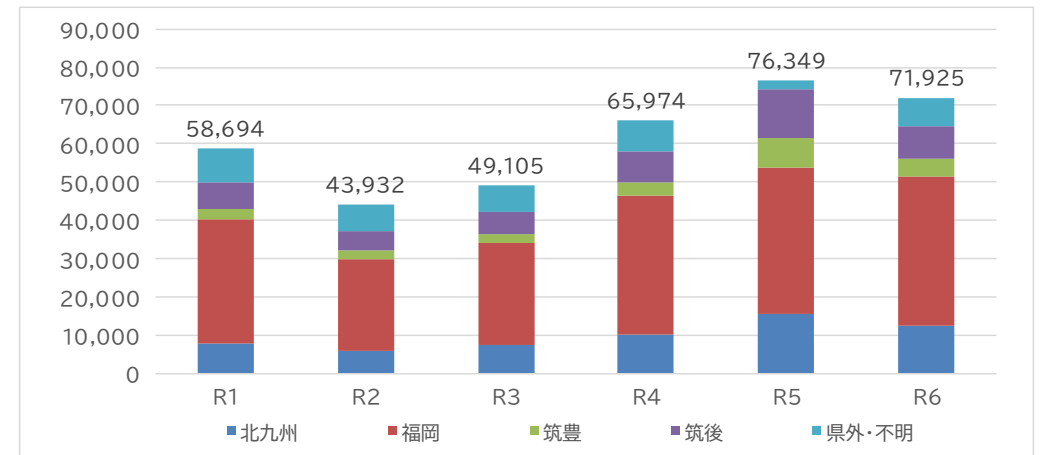


●福岡県小児救急医療電話相談(# 8000)件数

地域別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	増加率 (R1→R6)
北九州	7,615	5,869	7,334	10,265	15,449	12,596	65.4%
福岡	32,539	24,063	26,695	36,142	38,283	38,759	19.1%
筑豊	2,843	2,230	2,472	3,546	7,872	4,544	59.8%
筑後	6,919	4,795	5,651	8,177	12,649	8,656	25.1%
県外・不明	8,778	6,975	6,953	7,844	2,096	7,370	-16.0%
福岡県計	58,694	43,932	49,105	65,974	76,349	71,925	22.5%

福岡県の「#8000」の相談件数はR2年度から増加傾向にあり、過去最多は前年度(R5年度)の7万6,349件である

福岡地域の「#8000」の相談件数はR2年度から一貫して増加傾向にあり、R6年度は過去最多の3万8,759件となった



*地域別の件数は相談者居住地による相談件数

21. MDC(主要診断群分類)別割合(手術あり) (令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査(R5.4月～R6.3月)」)

Major Diagnostic Category : WHOが制定しているICD-10分類「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正」に基づく18の主要診断群のこと

神経系 (01)	: (医) 光川会福岡脳神経外科病院 (18.0%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (12.3%)、福岡大学病院 (11.0%)
眼科系 (02)	: (医) 研英会林眼科病院 (28.5%)、(医) 松井医仁会大島眼科病院 (16.5%) 九州大学病院 (12.8%)
耳鼻科系 (03)	: (国共連) 浜の町病院 (16.4%)、九州大学病院 (15.3%)、福岡大学病院 (12.0%)
呼吸器系 (04)	: 福岡大学病院 (17.9%)、九州大学病院 (16.4%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (12.5%)
循環器系 (05)	: 福岡県済生会福岡総合病院 (14.7%)、九州大学病院 (11.0%)、福岡赤十字病院 (10.1%)
消化器系 (06)	: 九州大学病院 (11.8%)、福岡大学病院 (9.0%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (7.6%)
筋骨格系 (07)	: 九州大学病院 (17.4%)、福岡大学病院 (11.0%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (9.7%)
皮膚系 (08)	: 九州大学病院 (19.7%)、福岡大学病院 (13.9%)、公立学校共済組合 九州中央病院 (9.0%)
乳房系 (09)	: 及川病院 (13.6%)、(独) 国立病院機構 九州がんセンター (11.7%)、九州大学病院 (11.1%)
内分泌系 (10)	: やました甲状腺病院 (54.7%)、九州大学病院 (10.9%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (6.5%)
腎尿路系 (11)	: (医) 原三信病院 (21.0%)、福岡赤十字病院 (10.6%)、九州大学病院 (10.3%)
女性系 (12)	: (国共連) 浜の町病院 (18.5%)、(医) 高邦会福岡山王病院 (13.7%)、九州大学病院 (11.4%)
血液系 (13)	: 九州大学病院 (27.6%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (13.5%)、(国共連) 浜の町病院 (10.4%)
新生児系 (14)	: (地独) 福岡市立病院機構福岡市立こども病院 (45.5%)、九州大学病院 (29.3%)、福岡大学病院 (15.5%)
小児系 (15)	: —
外傷系 (16)	: (医) 溝口外科整形外科病院 (9.3%)、福岡和白病院 (9.0%)、福岡大学病院 (7.6%)
精神系 (17)	: —
その他 (18)	: 九州大学病院 (22.0%)、福岡大学病院 (13.7%)、(国共連) 浜の町病院 (11.9%)

21. MDC(主要診断群分類)別割合(手術なし) (令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査(R5.4月～R6.3月)」)

Major Diagnostic Category : WHOが制定しているICD-10分類「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正」に基づく18の主要診断群のこと

神経系 (01)	: (独) 国立病院機構 九州医療センター (10.6%)、九州大学病院 (9.5%)、(医) 光川会福岡脳神経外科病院 (8.9%)
眼科系 (02)	: 九州大学病院 (43.5%)、(医) 誠和会 牟田病院 (15.2%)、(医) 研英会林眼科病院 (14.7%)
耳鼻科系 (03)	: (独) 国立病院機構 九州医療センター (9.9%)、九州大学病院 (8.6%)、(国共連) 浜の町病院 (8.1%)
呼吸器系 (04)	: (独) 国立病院機構 九州医療センター (11.0%)、(独) 国立病院機構福岡病院 (7.9%)、九州大学病院 (7.5%)、福岡赤十字病院 (7.5%)
循環器系 (05)	: (独) 国立病院機構 九州医療センター (9.0%)、福岡県済生会福岡総合病院 (7.3%)、福岡大学病院 (7.1%)
消化器系 (06)	: 九州大学病院 (14.7%)、(独) 国立病院機構 九州がんセンター (7.8%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (7.6%)
筋骨格系 (07)	: 九州大学病院 (19.0%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (13.2%)、福岡赤十字病院 (7.7%)
皮膚系 (08)	: (地独) 福岡市立病院機構福岡市立こども病院 (29.7%)、九州大学病院 (10.0%)、福岡大学病院 (9.6%)
乳房系 (09)	: (独) 国立病院機構 九州がんセンター (27.2%)、(国共連) 浜の町病院 (16.5%)、九州大学病院 (13.9%)
内分泌系 (10)	: 九州大学病院 (15.5%)、福岡赤十字病院 (10.2%)、福岡大学病院 (8.7%)
腎尿路系 (11)	: 福岡赤十字病院 (11.6%)、九州大学病院 (10.5%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (9.7%)
女性系 (12)	: 九州大学病院 (29.1%)、(独) 国立病院機構 九州がんセンター (23.9%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (17.7%)
血液系 (13)	: 福岡赤十字病院 (16.6%)、(国共連) 浜の町病院 (14.7%)、九州大学病院 (14.2%)
新生児系 (14)	: (地独) 福岡市立病院機構福岡市立こども病院 (25.5%)、九州大学病院 (23.9%)、福岡大学病院 (16.4%)
小児系 (15)	: (地独) 福岡市立病院機構福岡市立こども病院 (55.4%)、福岡赤十字病院 (10.8%)、福岡大学病院 (10.0%)
外傷系 (16)	: 福岡和白病院 (9.7%)、福岡記念病院 (8.0%)、公立学校共済組合 九州中央病院 (5.2%)
精神系 (17)	: 九州大学病院 (16.6%)、(医) エイジイアイエイチ秋本病院 (13.3%)、雁の巣病院 (10.1%)
その他 (18)	: 九州大学病院 (28.1%)、福岡赤十字病院 (8.8%)、(独) 国立病院機構 九州医療センター (8.6%)